Canon

PowerShot SX30 IS

カメラユーザーガイド

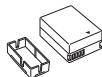
- ご使用前に必ず本書および、本書の「安全上のご注意」をお読みください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。
- CD-ROM内の電子マニュアル（PDF形式）もあわせてご覧ください（p.2）。

日本語

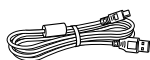
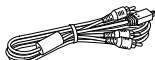
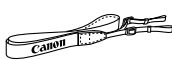
CDI-J431

カメラと付属品の確認

お使いになる前に、次のものが入っていることを確認してください。
万が一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
(アクセサリーシュー
キャップつき)

バッテリーパック NB-7L
（端子カバーつき）

バッテリーチャージャー
CB-2LZ

レンズ
キャップ

インターフェースケーブル
IFC-400PCU

ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST

ネックストラップ
NS-DC11

アクセサリーシュー
キャップ用ケース

カメラユーザーガイド
（本書）

DIGITAL CAMERA
Solution Disk

保証書

サポートガイド

電子マニュアルについて

ソフトウェアをインストールしたあと、デスクトップのショートカットアイコンをクリックすると、次の電子マニュアル（PDF形式）を参照できます。インストールができないときは、CD-ROM内の「Readme」フォルダからご覧ください。

- **はじめよう！おうちプリント**
  カメラとプリンターをつないで印刷するときにお読みください。
- **ソフトウェアガイド**
  付属のソフトウェアを使うときにお読みください。

- メモリーカードは付属されていません。
- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

はじめにお読みください

試し撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一、カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の修理受付センターへご相談ください。

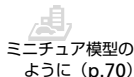
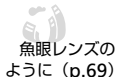
液晶モニター（画面）とビューファインダーについて

- 液晶モニターとビューファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。

長い時間使う際のご注意

このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

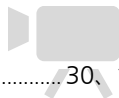
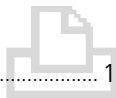
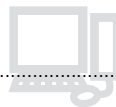
やりたいこと目次

撮　る

見　る

動画を撮る／見る

印刷する

残　す

その他

目次

このガイドは、1～3章までの説明で、このカメラの基本的な操作やよく使う機能がわかるようになっています。4章以降は高度な機能を説明していますが、読み進めることでステップアップできるようになっています。

5 もっとカメラを使いこなそう....................83

6 動画のいろいろな機能を使ってみよう.................107

7 いろいろな再生と編集機能を使ってみよう.................117

8 印刷してみよう 141

9 カメラの設定を自分好みに変えよう 149

10カメラを使うときに役立つ情報 163

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

警告 死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**

視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは1m 以上離れてください。

- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**

ストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **指定外の電源は使わない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**

感電、火災の原因となります。

万が一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ずバッテリーを取り出してください。

バッテリーチャージャーが液体で濡れたときは、コンセントから抜いて、お買い上げになった販売店または修理受付センターにご相談ください。

- **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**

音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用したときは、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用したときは、スピーカーなどの破損の原因となります。

- **指定外のバッテリーは使わない。**
- **火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**
- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。**
- **電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**

バッテリーが破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万が一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

⚠ 注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
- **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**

けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**

やけどや故障の原因となることがあります。

- **次の場所で使用・保管しない。**
  - **直射日光のあたるところ**
  - **40度を超える高温になるところ**
  - **湿気やホコリの多いところ**

バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。
カメラやバッテリーチャージャーが熱により変形することがあります。

- **長時間再生すると、不快感を感じることがありますのでご注意ください。**

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**

撮像素子が損傷することがあります。

- **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**

故障の原因となることがあります。

- **ストロボに汚れやホコリなどの異物が付いたときは、綿棒などで取り除く。**

そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。

- **使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出して保管する。**

カメラにバッテリーを入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

- **バッテリーを廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**

他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーは、使用しないときや充電が終わったときは、コンセントから外す。**
- **布などをかけたまま充電しない。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。

- **ペットの近くにバッテリーを置かない。**

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないように、液晶モニターを内側に向けて閉じる。**
- **ストラップにアクセサリーをつけない。**

硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。

このガイドの記載について

- カメラのボタンやダイヤルは、ボタンやダイヤルに表記されている絵文字を使って示しています。
- 画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- 十字キー、コントローラーホイール、FUNC./SET（ファンクション/セット）ボタンは、それぞれ次の絵文字で示しています。

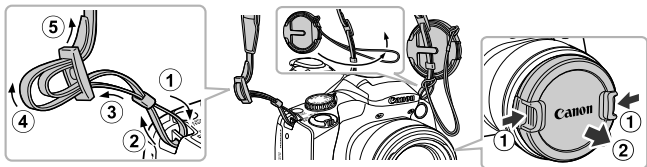
- ：注意事項を示しています。
- ：困ったときに手助けとなる内容を示しています。
- ：上手に使うためのヒントを示しています。
- ：補足説明を示しています。
- (p.xx)：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

1

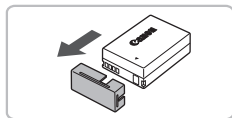
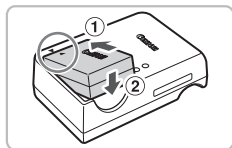
さっそくカメラを使ってみよう

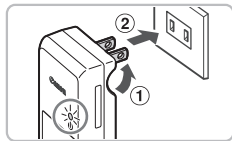
この章では、撮影前の準備、AUTO（オート）モードでの撮影、画像を見る、消すの一連の操作について説明しています。また章の後半では、動画を撮る、見る方法や、パソコンに画像を取り込む方法について説明しています。

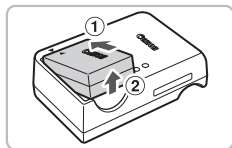
付属品を取り付ける／カメラの構えかた

- 付属のストラップをカメラに取り付け、撮影時にはカメラを落とさないように、首にかけてお使いください。
- 付属のレンズキャップのひもをストラップに取り付けてください。
- カメラの電源を入れる前に、必ずレンズキャップを外してください。外したレンズキャップはストラップにかけておくことをおすすめします。
- カメラの使用後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。
- 付属のアクセサリーシューキャップ用ケースについてはp.166を参照してください。

撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構えてください。

充電する

カメラに付属の充電器を使って、バッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。

1 カバーを外す

2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーと充電器の▲をあわせて、① の方向へ押しながら、② の方向へ取り付けます。

3 充電する

- プラグを① の方向へおこして、② コンセントに差し込みます。
- ▶ 充電がはじまり、ランプがオレンジ色に点灯します。
- ▶ 充電は、約2時間20分で完了し、ランプが緑色に点灯します。

4 バッテリーを取り外す

- 充電器をコンセントから抜き、① の方向へ押しながら、② の方向へ取り外します。

バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

撮影できる枚数の目安

撮影枚数	画面表示時*	約370枚
	ビューファインダー表示時	約400枚
再生時間		約10時間

* 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

• 撮影枚数は、撮影条件により少なくなることがあります。

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
(電池マーク)	十分です。
(電池マーク)	少し減っていますが、まだ使えます。
(電池マーク)（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを交換してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

バッテリーと充電器の上手な使いかた

- 充電は使う前日か当日にする
  充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減っていきます。

充電したバッテリーは、▲が見えるように
カバーを取り付けます。

- 長期間の保管方法
  バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、カバーを付けて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。
- 充電器は海外でも使える
  充電器は、AC100～240V 50/60Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。
- バッテリーがふくらむ
  バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 充電したのにすぐ使えなくなる
  バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

使えるカード（市販品）を確認する

- SD（エスディー）メモリーカード（2GB以下）＊[1]
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード（2GBを超える～32GB以下）＊[1]
- SDXC（エスディーエックスシー）メモリーカード（32GBを超える）＊[1]
- MMC（エムエムシー）カード＊[2]
- MMCplus（エムエムシープラス）カード
- HC MMCplus（エイチシーエムエムシープラス）カード
- Eye-Fi（アイファイ）カード

＊1 SD 規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

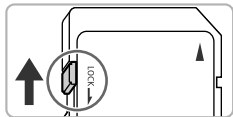
＊2「MMC」は、「MultiMediaCard」の略です。

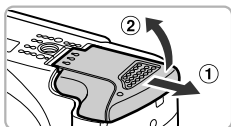
お使いのOSのバージョンによっては、SDXC メモリーカードをカードリーダー（市販品）に差しても、認識されないことがあります。必ずOSの対応状況を事前にご確認ください。

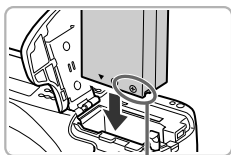
Eye-Fiカードについて

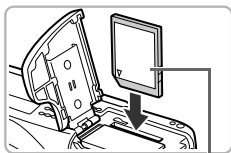
本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

バッテリーとカードを入れる

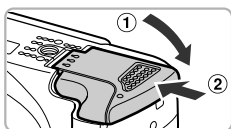
付属のバッテリーとカード（市販品）をカメラに入れます。

1 カードのスイッチを確認する

- スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。

2 ふたを開ける

- ① の方向にふたを動かして、② の方向へふたを開けます。

3 バッテリーを入れる

- バッテリーを図の向きにして、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。

4 カードを入れる

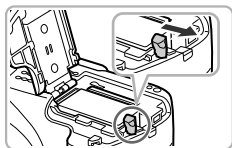
- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

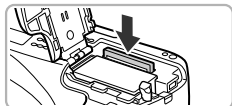
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。

5 ふたを閉める

- ふたを① の方向にたおして押さえたまま、② の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

［カードがロックされています］が表示された

SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード、Eye-Fiカードのスイッチが「LOCK」側になっていると、画面に［カードがロックされています］と表示され、撮影することや撮った画像を消すことができません。

バッテリーとカードを取り出す

バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- ▶ バッテリーが出てきます。

カードを取り出す

- 「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を放します。
- ▶ カードが出てきます。

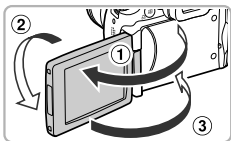
1枚のカードに撮影できる枚数の目安

カード	4GB	16GB
撮影枚数（枚）	1058	4334

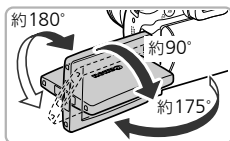
- カメラが初期状態での枚数です。
- 撮影枚数は、カメラの各種設定、被写体、カードにより変わります。

撮影できる枚数を確認するには？

カメラを撮影モード（p.25）にすると、画面で確認できます。

液晶モニター（画面）を使う

液晶モニターを使う

- 液晶モニターを開き（①）、レンズ側に180°回転させます（②）。
- 液晶モニターを閉じます（③）。

液晶モニターの向きや角度を調整する

- 撮影シーンや目的に応じて、液晶モニターの向きや角度を自由に変えられます。
- カメラを使わないときは画面を保護するため、必ず内側に向けて収納した状態で保管してください。

- 電源が入っている状態で液晶モニターを開くと、画面が表示されて、ビューファインダーの表示は消えます。また、画面を内側に向けて液晶モニター閉じると画面の表示が消えて、ビューファインダーが表示されます。
- 撮影モードで液晶モニターを開き、画面をレンズ側に向けると、画像が鏡像（左右反転）で表示されます。MENUボタンを押して［●］タブの［鏡像表示］を選び、◀か▶を押して［切］を選ぶと、鏡像表示を解除できます。

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。

2 日付／時刻を設定する

- ◀か▶を押して項目を選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して設定します。

3 設定を終える

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶日付／時刻が設定され、［日付/時刻］画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

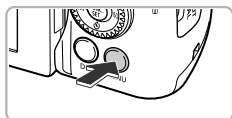
電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されるときは？

日付／時刻を設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］の設定画面が表示されます。正しく設定してください。

サマータイムの設定

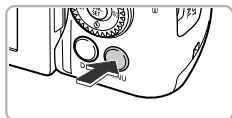
手順2で［☀OFF］を選び、▲か▼を押すか◎を回して［☀］にすると、サマータイム（1時間プラスされます。）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［YT］タブの［日付/時刻］を選ぶ

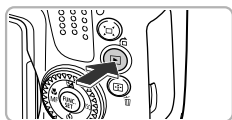
- ◀か▶を押して［YT］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［日付/時刻］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 日付／時刻を変える

- p.20の手順2～3の操作で設定します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

日付／時刻用電池について

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約3週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.39）を使うと、カメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに［日付/時刻］画面が表示されます。p.20の手順で正しく設定してください。

表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。

2 設定画面を表示する

- (FUNC./SET)を押したまま、すぐにMENUボタンを押します。

3 言語を設定する

- ◀か▶を押すか◎を回して言語を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 表示言語が設定され、設定画面が消えます。

? (FUNC./SET)を押したら時計画面が表示された？

手順2の操作で(FUNC./SET)を押してから、MENUボタンを押すまでの間隔が長いと、時計表示になります。時計表示になったときは(FUNC./SET)を押して時計表示を消して、もう一度手順2の操作を行います。

言語設定は、MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面で、[ ]タブの［言語］を選んで設定することもできます。

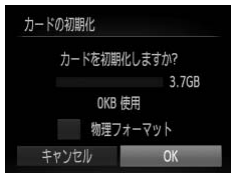
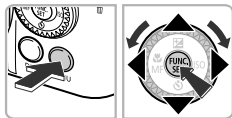
カードを初期化する

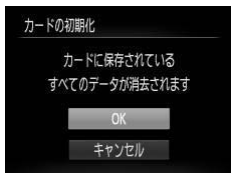
新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。十分に確認してから初期化してください。
また、Eye-Fiカード（p.170）では、初期化する前にカード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

● ◀か▶を押して［ΨT］タブを選びます。
● ▲か▼を押すか◎を回して［カードの初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 ［OK］を選ぶ

● ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

4 初期化する

● ▲か▼を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
▶ カードが初期化されます。

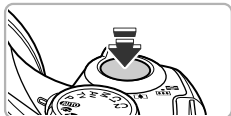
5 初期化を終える

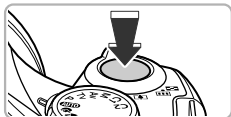
▶ 初期化が終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されます。
● (FUNC/SET)を押します。

カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

シャッターボタンの押しかた

ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、「全押し」して撮影します。

1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

- 電子音が「ピピッ」と2 回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されるまで、浅く押します。

2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。

- シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。

シャッター音の長さが変わる？

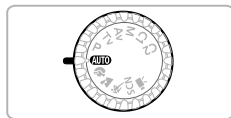
- 撮影にかかる時間は、撮影シーンにより変わるため、シャッター音の長さが変わることがあります。
- シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。

撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。人を撮影するときは、顔を自動的に検出して顔にピントを合わせ、顔の明るさや色あいも最適になるよう設定されます。

1 電源を入れる

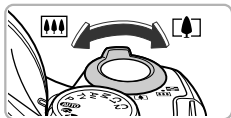
- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

2 AUTOモードにする

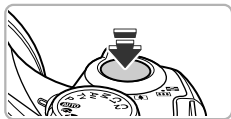
- モードダイヤルをAUTOにします。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 画面の右上にカメラが判別したシーンのアイコンが表示されます。
- ▶ 人の顔が検出されたときはフレームが表示され、顔にピントを合わせます。

ピントの合う範囲（目安）

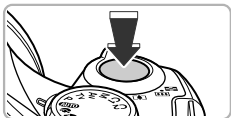
ズームバー

1.0m – ∞

AUTO

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを[♠]側へ押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠]側へ押すと小さくなります（ズームの位置を示すズームバーが表示されます）。
- ズームレバーを左右いっぱいまで押すと速く、少し押すとゆっくりと、大きさが変わります。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

AFフレーム

▶ ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。
複数のAFフレームが表示されたときは、表示されたすべてのAFフレームにピントが合っています。

● ［ストロボを上げてください］のメッセージが表示されたときは、ストロボ撮影をおすすめします。ストロボを指で持ち上げてください。
ストロボを使わないときは、指で押し下げて収納します（発光禁止になります）。

5 撮影する

● シャッターボタンを全押しして、撮影します。

▶ シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでストロボを上げているときは、自動的にストロボが光ります）。

▶ 撮影した画像は、約2秒間表示されます。

● 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。

画面の右上に表示されるアイコンは？

カメラが判別したシーンのアイコンが表示されます。表示されるアイコンについては「シーンのアイコン」（p.178）を参照してください。

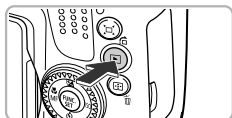
横長の灰色のフレームは？

動画で撮れる範囲です。モードダイヤルがどの位置にあっても、動画ボタンを押すだけで動画を撮影できます（p.107）。
フレームを非表示にするには、［情報表示設定］で［撮影情報］のチェックを外します（p.158）。

こんなときは？

- **思いどおりの色調や明るさで撮影されない**
  画面に表示されるシーンのアイコン（p.178）が、実際のシーンと異なることがあります。そのときは、**P**モード（p.71）で撮影することをおすすめします。
- **電源を入れてもカメラの画面が表示されない**
  ビューファインダーに表示されています。DISP.ボタンを何回か押すと、画面が表示されます。
- **カメラを被写体に向けると、白や灰色のフレームが表示される**
  カメラが人の顔を検出すると、主被写体と判断した顔には白のフレーム、その他の顔には灰色のフレームが表示され、一定の範囲で追尾します（p.84）。ただし、被写体が動いていると判別したときは、灰色のフレームが消えて、白のフレームだけになります。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、青色のフレームが表示される**
  被写体が動いていると判別したときは、青色のフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます（サーボAF）。
- **[ ] が点滅表示した**
  手ブレしやすいので、カメラが動かないように、三脚などでカメラを固定してください。
- **音が鳴らない**
  DISP.ボタンを押したまま電源を入れたため、警告を知らせる音以外は鳴らなくなりました。音が鳴るように設定するには、MENUボタンを押して、[ ] タブの［消音］を選び、◀か▶を押して［しない］を選びます。
- **ストロボが光ったのに暗い画像になった**
  被写体までの距離が遠すぎます。ズームレバーを 側に押してもっとも広角側にしたときはレンズ先端から約50cm～5.8m、[ ]側へ押してもっとも望遠側にしたときは約1.4m～2.8mの範囲で撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴る**
  撮りたいものが近すぎる可能性があります。ズームレバーを[ ]側に押してもっとも望遠側にしたときは約1.4m以上離れて撮影してください。
- **シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（前面）が点灯する**
  暗いところでの撮影では、目が赤く写るのを緩和したり、ピントを合わせるため、ランプが点灯することがあります。
- **撮影しようとしたら、[ ] が点滅表示されて撮影できない**
  ストロボ充電中です。充電が終わると撮影できます。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

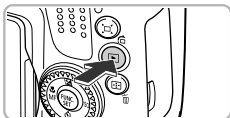
2 画像を選ぶ

- ◀を押すか◎を反時計方向に回すと、最後に撮影した画像から、新しい順に表示されます。
- ▶を押すか◎を時計方向に回すと、古い画像から順に表示されます。
- ◀か▶を押したままにすると、画像が速く切り換わります。ただし、表示画像は粗くなります。
- 約1分経過すると、レンズが収納されます。
- レンズが収納されているときは、もう一度▶ボタンを押すと、電源が切れます。

撮影モードに切り換える

再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

消す

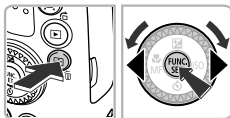
不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 再生モードにする

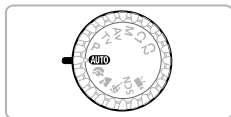
- ▶ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。

2 消したい画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。

3 消す

- 🗑ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して［消去］を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、◀か▶を押すか◎を回して［キャンセル］を選び、FUNC.SETを押します。

動画を撮る

動画ボタンを押すだけで、カメラまかせの動画撮影ができます。音声はステレオで記録されます。

撮影できる時間

1 AUTOモードにする

- モードダイヤルをAUTOにします。

2 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを[♠]側へ押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠]側へ押すと小さくなります。

3 撮影する

- 動画ボタンを押します。

撮影時間

▶ 電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。

- 撮影がはじまったら、動画ボタンから指を放します。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。

- 撮影中はマイクをふさがないでください。
- 動画ボタン以外を操作すると、操作音も録音されます。

4 撮影を終える

- 動画ボタンをもう一度押します。
- ▶ 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- ▶ 撮影した動画がカードに記録されます。
- ▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

撮影中に撮りたいものの大きさを変える

撮影中にズームレバーを操作すると、撮りたいものの大きさを変えることができます。ただし、操作音は録音されます。

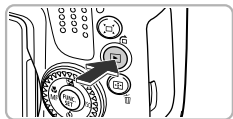
- モードダイヤルが AUTO のときは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示されます（p.178）。ただし、「動いているとき」のアイコンと「顔の一部が暗いとき」のアイコンは表示されません。また、シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
- モードダイヤルが AUTO 以外の位置にあっても、動画ボタンを押すと動画を撮影できます。（p.107）
- モードダイヤルを にすると、各機能を設定した動画撮影ができます（p.107）。

撮影できる時間の目安

カード	4GB	16GB
撮影時間	20分43秒	1時間24分54秒

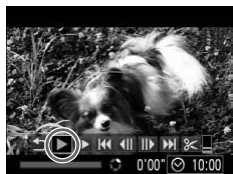
- カメラが初期状態での撮影時間です。
- 連続撮影時間は約29分59秒です。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス4以上のカードを使用することをおすすめします。

動画を見る

撮影した動画を画面で見ることができます。

1 再生モードにする

- ● [▶]ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。
- ▶ 動画には［SET 動画］が表示されます。

2 再生する動画を選ぶ

- ● ◀か▶を押すか◎を回して再生する動画を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 動画操作パネルが表示されます。

3 再生する

- ● ◀か▶を押すか◎を回して［ ▶ ］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 動画が再生されます。
- ● (FUNC. SET)を押すと一時停止／再開できます。
- ● 音量は▲か▼を押して調節します。
- ▶ 再生が終わると［SET 動画］が表示されます。

パソコンで動画を再生できない

- 付属のソフトウェアをインストールしてください（p.34）。
- パソコンで動画を再生すると、パソコンの環境によっては「フレーム（コマ）落ちする」、「滑らかに表示されない」、「音声が途切れる」ことがあります。
- 付属のソフトウェアを使ってカードに書き戻すと、カメラで滑らかに再生できます。さらに、テレビにつなげば、臨場感ある動画を楽しめます。

パソコンに取り込んで見る

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで見ることができます。すでにキヤノン製コンパクトデジタルカメラに付属のソフトウェアをお使いのときは、付属のCDで最新のソフトウェアを上書きインストールしてください。

パソコンに必要なシステム構成

Windows

OS	Windows 7 Windows Vista Service Pack 1、Service Pack 2 Windows XP Service Pack 3
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること
CPU	静止画 Pentium 1.3GHz以上、動画 Core2 Duo 1.66GHz以上
RAM	Windows 7（64bit）：2GB以上 Windows 7（32bit）、Windows Vista（64bit、32bit）：1GB以上 Windows XP：静止画 512MB以上、動画 1GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	ZoomBrowser EX：200MB以上 CameraWindow：150MB以上* PhotoStitch：40MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット以上

* Windows XPでは、Microsoft .NET Framework 3.0（最大500MB）以上のインストールが必要です。お使いの環境によっては、インストールに時間がかかることがあります。

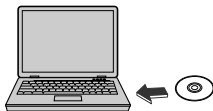
Macintosh

OS	Mac OS X v10.4～v10.6
機種	上記OSがプリインストールされていて、USB接続部が標準装備されていること
CPU	静止画 PowerPC G4 / G5またはIntelプロセッサー、動画 Core Duo 1.66GHz以上
RAM	Mac OS X v10.4～v10.5：静止画 512MB以上、動画 1GB以上 Mac OS X v10.6：1GB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	ImageBrowser：250MB以上 CameraWindow：150MB以上 PhotoStitch：50MB以上
ディスプレイ	1,024×768ドット以上

準備をする

ここでは、Windows VistaとMac OS X v10.5を使って説明をしています。

1 インストールする

Windows

① CDをパソコンのドライブに入れる

- 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。

② インストールをはじめる

- ［おまかせインストール］をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。
- ユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、メッセージにしたがって進めます。

③ インストールが終わったら、［再起動］または［完了］をクリックする

④ CDを取り出す

● デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。

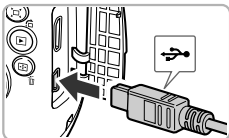
Macintosh

① CD をパソコンのドライブに入れる

● 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。

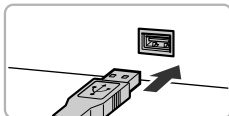
② インストールをはじめる

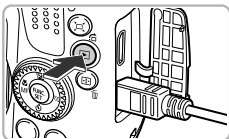
● CD内の[ ]をダブルクリックします。

● ［インストール］をクリックして、表示される画面にしたがって操作を進めます。

2 カメラとパソコンをつなぐ

● カメラの電源を切ります。

● ふたを開き、付属のインターフェースケーブル（p.2）の小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。

● インターフェースケーブルの大きい方のプラグをパソコンに差し込みます。パソコンとのつなぎかたについては、パソコンの使用説明書を参照してください。

3 電源を入れる

● ▶ボタンを押して電源を入れます。

4 CameraWindow（カメラウィンドウ）を表示する

Windows

- ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］をクリックします。
- ▶ CameraWindowが表示されます。
- 画面が表示されないときは、［スタート］メニュー ▶［すべてのプログラム］▶［Canon Utilities］▶［CameraWindow］▶［CameraWindow］を選びます。

Macintosh

- ▶ カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。
- CameraWindowが表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の［CameraWindow］アイコンをクリックします。

Windows 7をお使いのときは、次の手順でCameraWindowを表示します。

① タスクバーの［ ］をクリックします。
② 表示された画面で、［ ］のプログラムを変更するためのリンクをクリックします。
③［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］を選び、［OK］をクリックします。
④［ ］をダブルクリックします。

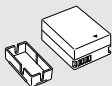
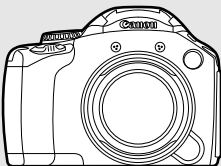
画像を取り込む／見る

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックしたあと、［未転送画像を取り込む］をクリックします。
- ▶ パソコンに取り込まれていないすべての画像が取り込まれます。画像は、撮影日ごとのフォルダに分けられて、「ピクチャ」フォルダに保存されます。
- ［画像の取り込みが完了しました。］が表示されたら［OK］をクリックしたあと、［×］をクリックしてCameraWindowを閉じます。
- カメラの電源を切り、ケーブルを抜きます。
- パソコンで画像を見る操作は、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

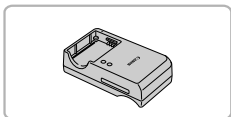
付属のソフトウェアの画像取り込み機能を使わなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。

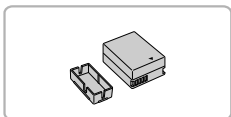
- カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
- 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
- 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
- OSのバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込めないことがあります。
- 動画編集や書き戻しなど、付属のソフトウェアの機能が一部使えなくなることがあります。

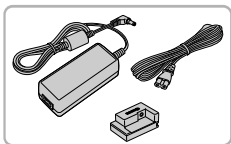
接続マップ

付属品
DIGITAL CAMERA
Solution Disk
バッテリーパック NB-7L
（端子カバーつき）*
バッテリーチャージャー
CB-2LZ*
ネックストラップ
NS-DC11
レンズキャップ
ステレオAVケーブル
AVC-DC400ST*
アクセサリーシュー
キャップ用ケース
インターフェース
ケーブルIFC-400PCU*
（アクセサリーシュー
キャップつき）
* 別売りも用意されています。
メモリーカード
カードリーダー
Windows/Macintosh
キヤノン製PictBridge対応プリンター
テレビ
HDMIケーブル HTC-100
ハイビジョンテレビ

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源

バッテリーチャージャー CB-2LZ

- バッテリーパック NB-7L用の充電器です。

バッテリーパック NB-7L

- 充電式のリチウムイオン電池です。

ACアダプターキット ACK-DC50

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

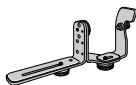
海外での使用について

バッテリーチャージャーやACアダプターキットは、AC100～240V 50/60Hzの地域で使えます。
プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

ストロボ

スピードライト 270EX、430EX II、580EX II

- クリップオンタイプの外付けストロボで、多彩なストロボ撮影ができます。

スピードライト 430EX、580EXもお使いになれます。

スピードライトブラケット SB-E2

- 縦位置撮影時、被写体の横に不自然な影が出ることを防ぎます。オフカメラシューコードOC-E3も付属しています。

スピードライトトランスミッター ST-E2

- スレーブ設定されたスピードライト（270EX を除く）をワイヤレスで制御できます。

その他

ソフトケース PSC-2250

- カメラをキズやホコリから守ります。

HDMI ケーブル HTC-100

- カメラとハイビジョンテレビの HDMI™ 端子をつなぐケーブルです。

レンズフード LH-DC60

- 画面外から不要な光がレンズに入らないようにして、画質劣化の原因となるフレアやゴーストを防ぎます。

フィルターアダプター FA-DC67A

- 67mm のフィルターを取り付けるためのアダプターです。

キヤノン製レンズフィルター（φ67mm）

- レンズを保護したり、さまざまな効果をつけて撮影できます。

プリンター

SELPHY シリーズ

PIXUS シリーズ

キヤノン製PictBridge 対応プリンター

- キヤノン製のPictBridge 対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。
  製品の詳細については、ホームページやカタログでご確認いただくか、お客様相談センターへお問いあわせください。

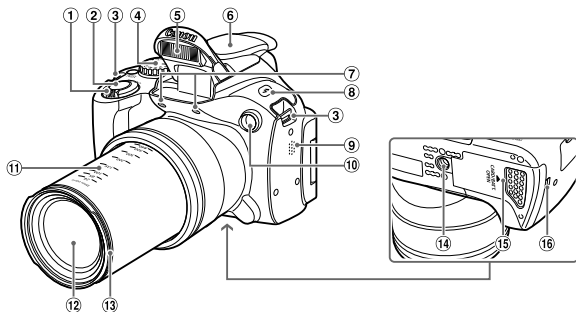
アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

2

もっとカメラを知ってみよう

この章ではカメラの各部のなまえや画面の表示内容のほか、各種の基本的な操作方法について説明しています。

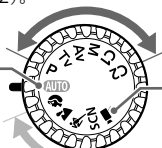
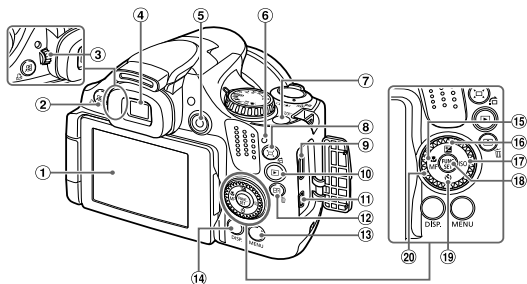
各部のなまえ

① ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）（p.25、30、58）
再生時：Q（拡大）／[■■]（インデックス）（p.118、123）
② シャッターボタン（p.24）
③ ストラップ取り付け部（p.13）
④ モードダイヤル
⑤ ストロボ（p.26、72）
⑥ アクセサリーシューキャップ（p.166）
⑦ マイク（p.31）
⑧ ⚡（ストロボ）ボタン（p.72）
⑨ スピーカー
⑩ ランプ（前面）（p.61、67、68、80、81、156、157）
⑪ 焦点距離の目安
⑫ レンズ
⑬ レンズフード／レンズフィルター取り付け部（p.165）
⑭ 三脚ねじ穴
⑮ カード／バッテリー収納部ふた（p.17）
⑯ DCカプラー用ケーブル通し部（p.164）

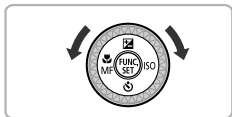
モードダイヤル

撮影モードの切り換えは、モードダイヤルで行います。

P、Tv、Av、M、C1、C2モード
各種機能を設定して、さまざまな撮影ができます（p.72）。

オートモード
カメラまかせの全自動撮影ができます（p.25、30）。

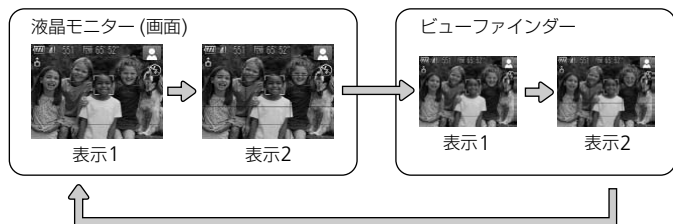
動画モード
各種機能を設定して、動画撮影ができます（p.107）。なお、動画モード以外でも動画ボタンを押すだけで動画撮影できます（p.107）。

シーンモード
撮影シーンに最適な撮影や、いろいろな効果をつけた撮影ができます（p.62、63）。

① 画面（液晶モニター）（p.19、46、177、179）
② ⬚（ショートカット）（p.160）／⬚（イージープリント）（p.142）ボタン
③ 視度調節ダイヤル（p.52）
④ ビューファインダー（p.46）
⑤ 動画ボタン（ムービーボタン）（p.30、107）
⑥ ランプ（背面）（p.47）
⑦ 電源ボタン（p.20）
⑧ ⬚（フレーミングアシスト）（p.91）／⬚（ジャンプ）ボタン（p.119）
⑨ HDMI端子（p.126）
⑩ ▶（再生）ボタン（p.28、117）
⑪ A/V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子（p.35、125、142）
⑫ ⬚（AFフレーム選択）（p.85、88）／⬚（1画像消去）ボタン（p.29）
⑬ MENU（メニュー）ボタン（p.49）
⑭ DISP.（ディスプレイ）ボタン（p.46）
⑮ ⬚（マクロ）（p.73）／MF（マニュアルフォーカス）（p.89）／◀ボタン
⑯ ⬚（露出補正）（p.73）／▲ボタン
⑰ ISO（p.76）／▶ボタン
⑱ ⬚ FUNC./SET（ファンクション／セット）ボタン（p.48）
⑲ ⬚（セルフタイマー）（p.61、80、81）／▼ボタン
⑳ コントローラーホイール

コントローラーホイール

ホイールを回すと、項目を選んだり画像の切り換えなどができます。また、一部の操作を除き、▲、▼、◀、▶ と同じ操作ができます。

画面の表示

表示の切り換え

画面表示は、DISP.ボタンを押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.177を参照してください。
電源が入っている状態で液晶モニターを開くと、画面が表示されて、ビューファインダーの表示は消えます。また、画面を内側に向けて閉じると画面の表示が消えて、ビューファインダーが表示されます（p.19）。

撮影時

再生時

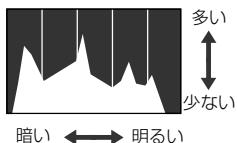
撮影直後の画面表示も、DISP.ボタンを押して切り換えられます。ただし、簡易情報表示にはなりません。最初に表示される画面は、MENUボタンを押して［📷］タブの［レビュー情報］で変えられます（p.158）。

撮影時の暗い場所での画面表示

暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。

再生時の高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」（p.46）にすると、画像上の白トビした部分が点滅表示されます。

再生時のヒストグラム

- 「詳細情報表示」（p.46）のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示しています。また、グラフが右に寄っているときは明るい画像、左に寄っているときは暗い画像となり、露出の傾向を確認できます。
- ヒストグラムは撮影時に表示することもできます（p.158）。

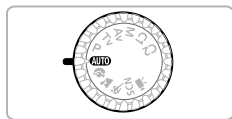
ランプの表示

カメラ背面のランプ（p.45）は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	電源がはいっているとき
	点滅	カードへの記録／読み出し、各種通信中

ランプ（背面）が緑色に点滅しているときは、カードへの記録／読み出しや各種通信をしています。「電源を切る」、「カード／バッテリー収納部のふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。

FUNC.メニューの基本操作

撮影時によく使う機能は、FUNC.メニューで設定できます。
なお、表示されるメニュー項目や項目は、撮影モード（p.180〜181）によって変わります。

1 撮影モードを選ぶ

- モードダイヤルを目的の撮影モードにあわせます。

2 FUNC.メニューを表示する

- (FUNC/SET)を押します。

項目

メニュー項目

3 メニュー項目を選ぶ

- ▲か▼を押してメニュー項目を選びます。
- ▶ 選んだメニュー項目の項目が、画面の下部に表示されます。

4 項目を選ぶ

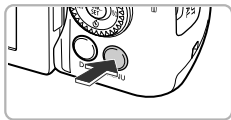
- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選びます。
- DISP.が表示される項目では、DISP.ボタンを押して設定することができます。

5 設定を終える

- (FUNC/SET)を押します。

- ▶ 撮影画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

メニューの基本操作

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［📷］や再生［▶］などの系統に分けられています。なお、表示される項目は、選んでいる撮影モードや再生モード（p.182～185）によって変わります。

1 メニューを表示する

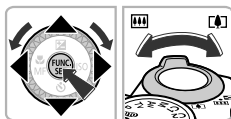
- MENUボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- ◀か▶を押すかズームレバーを左右に動かして、タブを選びます。

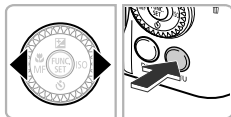
3 項目を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選びます。

- 項目を選んだあと、(FUNC/SET)か▶を押すと画面が切り換わり、設定する項目もあります。

4 内容を選ぶ

- ◀か▶を押して内容を選びます。

5 設定を終える

- MENUボタンを押すと、通常の画面に戻ります。

音の設定を変える

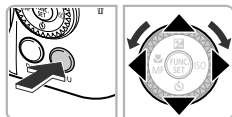
各ボタンを押したときや撮影のときに鳴る音を、鳴らないようにしたり、音量を変えたりできます。

音を鳴らさない

1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［消音］を選ぶ

- ◀か▶を押して［ƳT］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［消音］を選び、◀か▶ を押して［する］を選びます。
- MENUボタンを押すと、通常の画面に戻ります。

DISP.ボタンを押したまま電源を入れても、音を鳴らさないようにできます。

音量を変える

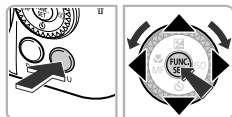
1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［音量］を選ぶ

- ◀か▶を押して［ƳT］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［音量］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 音量を変える

- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選び、◀か▶を押して音量を変えます。
- MENUボタンを2回押すと、通常の画面に戻ります。

画面の明るさを変える

画面の明るさを、2種類の方法で変えられます。
画面とビューファインダーの明るさは、別々に設定できます（DISP.ボタンを押して設定したい方を表示してから設定します）。

メニューで変える

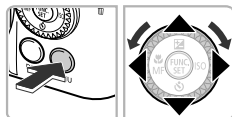
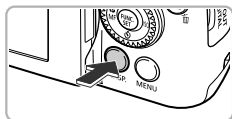
1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［液晶の明るさ］を選ぶ

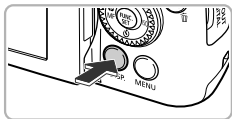
- ◀か▶を押して［Ƴ†］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［液晶の明るさ］を選びます。

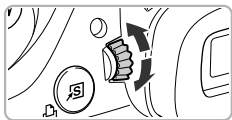
3 明るさを変える

- ◀か▶を押して明るさを変えます。
- MENUボタンを2回押すと、通常の画面に戻ります。

DISP.ボタンを押して変える

- DISP.ボタンを1秒以上押します。
- ▶画面が最高の明るさになります（［Ƴ†］タブの設定は無効になります）。
- もう一度DISP.ボタンを1秒以上押すと、もとの明るさに戻ります。

- 次回電源を入れたときは、［Ƴ†］タブで設定されている明るさになります。
- ［Ƴ†］タブの設定で最高の明るさになっているときは、DISP.ボタンを押しても明るさは変わりません。

ビューファインダーを調節する

ビューファインダーの表示がはっきり見えるように調節します（視度調節）。

1 ビューファインダー表示にする

- ビューファインダーが表示されるまで、DISP.ボタンを何回か押します（p.46）。

2 調節する

- ビューファインダーを見ながら、ダイヤルを回します。
- −4.0〜+1.0m^{-1}（dpt）の範囲で調整できます。

節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.24）すると画面が表示され、撮影できます。

再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.153）。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.154）。

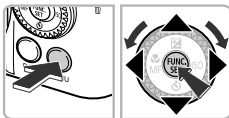
カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。

1 メニューを表示する

● MENUボタンを押します。

2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

● ◀か▶を押して［ƒ†］タブを選びます。
● ▲か▼を押すか◎を回して［カメラ設定初期化］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 初期状態に戻す

● ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
▶ カメラが初期状態に戻ります。

? 初期状態に戻らない機能は？

- ［ƒ†］タブの［日付/時刻］（p.21）、［言語］（p.22）、［ビデオ出力方式］（p.125）、［エリア設定］（p.154）、［起動画面］に登録した画像（p.151）
- マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p.77）
- ワンポイントカラー（p.103）、スイッチカラー（p.104）で指定した色
- SCNで指定したシーンモード（p.63）
- 動画モード（p.108）

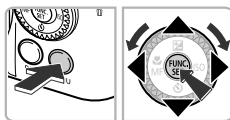
カードを物理フォーマット（初期化）する

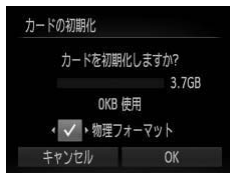
［カードが異常です］のメッセージが表示されたとき、カメラが正しく動作しないとき、カードへの画像記録／再生時の読み出し速度が遅くなったときなどに行います。物理フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンなどにコピーするなど、十分に確認してから物理フォーマットをしてください。

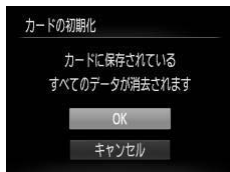
1 メニューを表示する

- MENUボタンを押します。

2 ［カードの初期化］を選ぶ

- ◀か▶を押して［ƒ†］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［カードの初期化］を選び、(FUNC SET)を押します。

3 ［物理フォーマット］を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して［物理フォーマット］を選び、◀か▶を押して［✓］を表示します。
- ▲▼◀▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。

4 物理フォーマットをする

- ▲か▼を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 物理フォーマットがはじまります。
- ▶ 物理フォーマットが終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されます。

5 物理フォーマットを終える

- (FUNC./SET)を押します。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、「カードの初期化」(p.23)よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

時計機能

現在の時刻を確認できます。

- (FUNC./SET)を押したままにします。
- ▶ 現在の時刻が表示されます。
- 時刻表示中にカメラを縦にすると縦表示になります。◀か▶を押すか(ダイヤル)を回すと表示色を変えることができます。
- もう一度(FUNC./SET)を押すと時刻表示が消えます。

(FUNC./SET)を押したまま電源を入れることで、時刻表示にすることもできます。

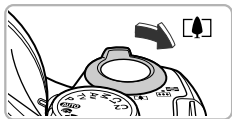
3

よく使う機能で撮ってみよう

この章では、セルフタイマーなどのよく使う機能や、いろいろなシーン別での撮影方法について説明しています。

- 「被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）」（p.58）～「セルフタイマーを使う」（p.61）は、AUTO モードになっていることを前提に説明しています。AUTO モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.180～183）。
- 「いろいろなシーンで撮る」（p.62）～「ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）」（p.70）は、それぞれのモードを選んだときの説明をしています。

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約140倍まで拡大できます。ただし、設定した記録画素数（p.74）とデジタルズームの倍率によっては画像が粗くなることがあります。

1 ズームレバーを[🌲]側へ押す

- ズームできるところまでレバーを押したままにします。
- ▶ 画像が粗くならない最大の倍率になるとズームが止まり、レバーを放すとズーム倍率が表示されます。

2 もう一度[🌲]側へ押す

- ▶ デジタルズームで被写体がさらに拡大されます。

? ズーム倍率が青色で表示される

青色で表示されるズーム倍率では、画像が粗くなります。

デジタルズームを切る

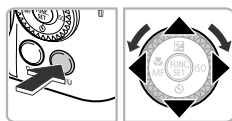
デジタルズームを使わないようにするには、MENUボタンを押して、[📷] タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます。

光学ズームとデジタルズームをあわせた焦点距離は24～3360mm（光学ズーム時の焦点距離は24～840mm）です（35mmフィルム換算）。

デジタルテレコンバーター

レンズの焦点距離を約1.7倍／約2.1倍にできます。ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。ただし、設定した記録画素数（p.74）とテレコンバーターの組みあわせによっては、画像が粗くなることがあります。

1 ［デジタルズーム］を選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀か▶を押して、［📷］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［デジタルズーム］を選びます。

2 設定する

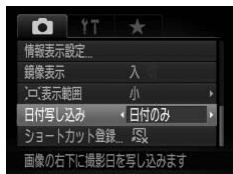
- ◀か▶を押して、倍率を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶ 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。
- 戻すときは、［デジタルズーム］で［入］を選びます。

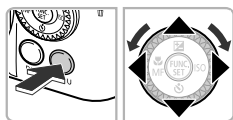
？ ズーム倍率が青色で表示される

記録画素数が［ L ］［M1］［W］のときは、倍率が青色で表示され、画像が粗くなります。

- 1.7倍／2.1倍時の焦点距離はそれぞれ40.8～1428mm／50.4～1764mm相当です（35mmフィルム換算）。
- デジタルズームとは一緒に使えません。

日時を入れる

画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.20）。

1 ［日付写し込み］を選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀か▶を押して［◘］タブを選びます。
- ▲か▼を押すか◎を回して［日付写し込み］を選びます。

2 設定する

- ◀か▶を押して［日付のみ］か［日付+時刻］を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。
- ▶ 設定されると、［日付］が表示されます。

3 撮影する

- ▶ 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が記録されます。
- 戻すときは、手順2の操作で［切］を選びます。

撮影日を入れずに撮った画像でも、次の方法で撮影日を入れて印刷できます。ただし、撮影日を入れて撮った画像に、撮影日を入れる指定をすると、重複して印刷されることがあります。

- **印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.145）**
- **付属のソフトウェアを使って印刷する**
  「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。
- **プリンターの機能を使って印刷する**
  「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

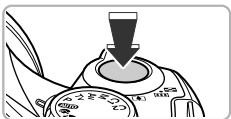
セルフタイマーを使う

集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。

1 ▼を押す

2 [ ] を選ぶ

● ▲か▼を押すか を回して [ ] を選び、 を押します。

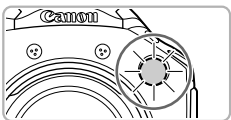
▶ 設定されると、[ ] が表示されます。

3 撮影する

● シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

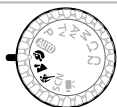
▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。

▶ 撮影の2秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

● タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、▼を押します。

● 戻すときは、手順 2 の操作で［ ］を選びます。

タイマーの時間と撮影する枚数を変えられます（p.81）。

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 撮影モードを選ぶ

- モードダイヤルを撮りたいシーンにあわせます。

2 撮影する

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。

風景を撮る（風景）

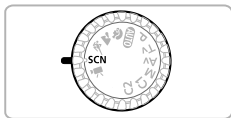
- 近景から遠景まで奥行きのあるシーンの撮影に最適です。

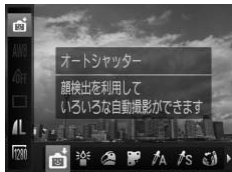
動きのある被写体を撮る（スポーツ）

- ピント合わせを行いながら連続撮影できます。
- 被写体からは、もっとも広角側にしたときで約1m以上、もっとも望遠側にしたときで約10m以上離れて撮影してください。

［ ］モードでは、撮影シーンによってはISO感度（p.76）が高くなるため、画像が粗くなることがあります。

特別なシーンで撮る

特別な撮影シーンにあったモードにするだけで、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。

1 SCNモードにする

- モードダイヤルをSCNにあわせます。

2 撮影モードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選びます。
- ◀か▶を押すか◎を回して撮影モードを選び、(FUNC/SET)を押します。

3 撮影する

暗い場所で撮る（ローライト）

- 暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。
- 記録画素数は［ M ］と表示され、1600×1200画素に固定されます。

砂浜で人を撮る（ビーチ）

- 太陽の光の反射が強い砂浜で、人を明るく撮影できます。

木々や葉を色鮮やかに撮る（新緑／紅葉）

- 新緑や紅葉、桜など自然の木々や葉を、色鮮やかに撮影できます。

雪景色で人を撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。

花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

［ ］モードでは手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.159）。

効果をつけて撮る

鮮烈な色で撮る（極彩色）

- 色の濃さを強調して、高彩度の鮮烈な色で撮影できます。

イラスト風の効果をつけて撮る（オールドポスター）

- 古いポスターのようなイラスト風の効果をつけて撮影できます。

［ ］［ ］モードでは、シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

笑顔を見つけて撮る（スマイル）

シャッターボタンを押さなくても、カメラが笑顔を検出するたびに、自動で撮影します。

1 ［😊］を選ぶ

- p.63の手順1～2の操作で［📷］を選んだあと、DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して［😊］を選び、DISP.ボタンを押します。
- ▶ 撮影準備に入り、［笑顔を検出中です］が表示されます。

2 カメラを人に向ける

- カメラが笑顔を検出するたびに、ランプ（前面）が光ったあと撮影されます。
- ▼を押すと、笑顔の検出を中断できます。もう一度▼を押すと笑顔の検出を再開します。

❓ 笑顔が検出されない

カメラの方を向いて、歯が見えるように口を開けて笑うと検出されやすくなります。

撮影枚数を変える

手順1で［😊］を選んだあと、▲か▼を押します。

- 笑顔を検出するたびに撮影し続けるので、撮影が終わったら、他の撮影モードに変えることをおすすめします。
- シャッターボタンを押して撮影することもできます。

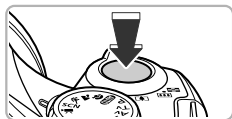
ウインクしたら撮る（ウインクセルフタイマー）

カメラを人に向けてシャッターボタンを押したあと、カメラがウインクを検出すると、約2秒後に撮影されます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.63の手順1～2の操作で［ ］を選んだあと、DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して［ ］を選び、DISP.ボタンを押します。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ウインクする人の顔に緑色の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- ▶ 撮影準備に入り、［ウインクすると撮影します］が表示されます。
- ▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 カメラに向かってウインクする

- ▶ 枠が表示された人のウインクが検出されると、約2秒後に撮影されます。
- 途中で撮影を中止するときは、▼を押します。

ウインクが検出されない？

- 少し長めに、しっかりとウインクしてください。
- 帽子や髪で目が隠れていたり、眼鏡をかけていたりすると、ウインクが検出されないことがあります。

撮影枚数を変える

手順1で［ ］を選んだあと、▲か▼を押します。

- 両目をつむってもウインクとして検出されます。
- ウインクが検出されないときは、約15秒後に撮影されます。
- 人がいない構図でシャッターボタンを全押ししたときは、あとから構図に入った人のウインクで撮影がはじまります。

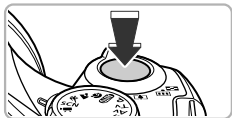
人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.84）されると、約2秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写したいときにおすすめです。

1 ［ ］を選ぶ

- p.63の手順1〜2の操作で［ ］を選んだあと、DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか を回して［ ］を選び、DISP.ボタンを押します。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- ▶ 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。

4 一緒に写る人が構図に入り顔をカメラに向ける

- ▶ 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、▼を押します。

撮影枚数を変える

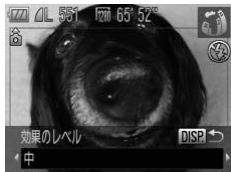
手順1で［ ］を選んだあと、▲か▼を押します。

一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約15秒後に撮影されます。

魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）

魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.63の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 効果を選ぶ

- DISP.ボタンを押します。
- ▶［効果のレベル］が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して効果のレベルを選び、DISP.ボタンを押します。
- ▶ 設定した効果で画面が表示されます。

3 撮影する

シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

指定した範囲の上下をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影します。

1 ［ ］を選ぶ

- p.63の手順1〜2の操作で［ ］を選びます。
- ▶ 画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントの合う範囲と位置を指定する

- DISP.ボタンを押します。
- ズームレバーを押して枠の大きさを変えたり、▲か▼を押して枠の位置を変えます。
- DISP.ボタンを押して撮影画面に戻ります。

3 撮影する

- 手順2の画面で(FUNC/SET)を押すと枠の縦横が変わり、枠を縦にしたときは◀か▶を押すと枠の位置を変えられます。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

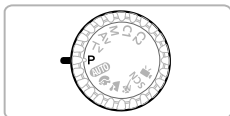
その他のシーンモード

ここで説明したモードの他にも、次のようなシーンモードがあります。

- ワンポイントカラー（p.103）
- スイッチカラー（p.104）
- スティッチアシスト（p.106）

4

目的の設定にして撮ってみよう

この章では、**P**モードのいろいろな機能を使って、一歩進んだ撮影方法について説明します。

- モードダイヤルが**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- **P**は、Program AE（プログラムエーイー）の略です。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.180～183）。

プログラムAEで撮る

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
なお、撮影距離は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときで約5cm以上、[T]側に押してもっとも望遠側にしたときで約1.4m以上になります。

1 Pモードにする

- モードダイヤルをPにします。

2 目的に応じて各機能を設定する（p.72～81）

3 撮影する

シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されたときは？

シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。次の設定で、適正露出が得られることがあります。

- ストロボを発光させる
- ISO感度を高くする（p.76）

ストロボを発光させる

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときで約50cm～5.8m、[T]側に押してもっとも望遠側にしたときで約1.4m～2.8mです。

1 ストロボを持ち上げる

2 [⚡] を選ぶ

- ⚡ボタンを押したあと、◀か▶を押すか◎を回して［⚡］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［⚡］が表示されます。

⚡ボタンを押しても設定画面が出ない？

ストロボがカメラに収納されています。指でストロボを持ち上げてください。

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

1 露出補正を選ぶ

- ▲を押します。

2 明るさを補正する

- 画面の表示を見ながら、◎を回して明るさを補正し、▲を押します。
- ▶ 設定した補正量が表示されます。

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

近くの被写体を撮影したり、被写体に近づいて撮影できます。ピントが合う範囲（フォーカスゾーン）は、ズームレバーを[W]側に押してもっとも広角側にしたときでレンズの先端から約0～50cmです。

[マクロ] を選ぶ

- ◀を押したあと、◀か▶を押すか◎を回して［マクロ］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［マクロ］が表示されます。

- マクロ撮影では、ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。
- レンズを傷つけないように注意してください。

うまく撮影するために

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［セルフタイマー2秒］で撮影することをおすすめします（p.80）。

マクロ撮影では、ズームバーの下にある黄色のバー表示の範囲は、［マクロ］が灰色表示になりピントが合いません。

記録画素数（画像の大きさ）を変える

画像の記録画素数を5種類から選べます。

1 記録画素数を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ L］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか ◎ を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

圧縮率（画質）を変える

圧縮率を2種類から選べます。高画質から順に［ ］（ファイン）、［ ］（ノーマル）となります。

1 圧縮率を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［ L］を選び、DISP.ボタンを押します。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか ◎ を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

記録画素数と圧縮率を選ぶときの目安

記録画素数（ピクセル）	圧縮率	1画像の容量（約・KB）	1枚のカードに撮影できる枚数	
			4GB	16GB
L（ラージ）14M/4320×3240	◢	3597	1058	4334
	▟	1719	2194	8985
M1（ミドル1）7M/3072×2304	◢	1897	1978	8101
	▟	902	4022	16473
M2（ミドル2）2M/1600×1200	◢	558	6352	26010
	▟	278	12069	49420
S（スモール）0.3M/640×480	◢	150	20116	82367
	▟	84	30174	123550
W（ワイド）3744×2104	◢	2024	1856	7602
	▟	968	3771	15443

• 表内の数値は当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

用紙の大きさで選ぶときの目安

- ［S］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。
- ［W］はワイドサイズ用紙用です。

ISO感度を変える

ISO感度を選ぶ

- ▶を押したあと、◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
ISO 80 ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600	高い	夜景、暗い室内

ISO感度を変えるときの目安

- ISO感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くすると、シャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると、自動設定されたISO感度が画面に表示されます。

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。

1 ホワイトバランスを選ぶ

- (FUNC. SET)を押したあと、▲か▼を押して［AWB］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

AWB オート	撮影シーンに応じて自動設定
太陽光	晴天の屋外
くもり	曇り空や日陰、薄暮
電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
ストロボ	ストロボ使用時
マニュアル	手動設定

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

- 上記の手順2の操作で［マニュアル］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、DISP.ボタンを押します。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししたままにすると、連続撮影ができます。

1 ドライブモードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［□］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか(◎)を回して［連続撮影］または［AF連続撮影］を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 撮影する

▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

モード	最高速度（約・枚/秒）	説明
連続撮影	1.3	シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出で連続撮影されます。
AF連続撮影	0.6	連続撮影中もピント合わせが行われます。［AFフレーム］は［中央］に固定されます。
LV連続撮影*	0.6	連続撮影中は、マニュアルフォーカスで設定したピント位置に固定されます。［▒］モードでは、1枚目のピント位置で固定されます。

＊［▒］モード時（p.64）、AFロック撮影時（p.87）、マニュアルフォーカス撮影時（p.89）は、［AF連続撮影］が［LV連続撮影］になります。

- セルフタイマー（p.61、80、81）とは一緒に使えません。
- ［☼］モード（p.63）では、連続撮影の速度が速くなります。
- 撮影シーンやカメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

画像の色調を変える（マイカラー）

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えることができます。

1 マイカラーを選ぶ

- (FUNC SET)を押したあと、▲か▼を押して［OFF］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか ◎ を回して項目を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

OFF	マイカラー切	—
V	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした印象の色調になります。
N	すっきりカラー	コントラストと色の濃さをおさえ、すっきりとした印象の色調になります。
Se	セピア	セピア調になります。
BW	白黒	白黒になります。
P	ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」、「あざやかグリーン」、「あざやかレッド」の効果をあわせたもので、ポジフィルムのように自然で色鮮やかになります。
L	色白肌	人の肌が色白になります。
D	褐色肌	人の肌が褐色になります。
B	あざやかブルー	青色を強調します。空や海などがより鮮やかになります。
G	あざやかグリーン	緑色を強調します。山や草花などがより鮮やかになります。
R	あざやかレッド	赤色を強調します。赤い被写体がより鮮やかになります。
C	カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます（p.80）。

- ［Se］［BW］では、ホワイトバランス（p.77）は設定できません。
- ［L］［D］では、人の肌の色以外が変わることがあります。また、肌の色によっては、思いどおりの色にならないことがあります。

カスタムカラー

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（先鋭度）、色の濃さ、赤、緑、青、肌色を、それぞれ5段階から選んで設定できます。

- p.79の手順2の操作で［Ac］を選び、DISP.ボタンを押します。
- ▲か▼を押して項目を選び、◀か▶を押すか◎を回して値を設定します。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃く／褐色（肌色）になり、左に行くほど弱く／薄く／色白（肌色）になります。
- DISP.ボタンを押すと設定されます。

セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。

［◌2］を選ぶ

- ▼を押したあと、▲か▼を押すか◎を回して［◌2］を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 設定されると、［◌2］が表示されます。
- p.61の手順3の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0～30秒）と、撮影枚数（1～10枚）を設定できます。

1 ［Ċc］を選ぶ

- ▼を押したあと、▲か▼を押すか◎を回して［Ċc］を選び、すぐにMENUボタンを押します。

2 設定する

- ▲か▼を押して［時間］または［枚数］を選びます。
- ◀か▶を押すか◎を回して数値を選び、(FUNC/SET)を押します。
- p.61の手順3の操作で撮影します。

? 撮影枚数を2枚以上にしたときは？

- 露出や色あいは、1枚目の撮影で固定されます。
- ストロボが発光するときや、撮影枚数を多くすると、撮影間隔が長くなることがあります。
- カードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

テレビを使って撮る

カメラの画面表示をテレビに表示して撮影できます。

- 「テレビで見る」（p.125）の手順でカメラとテレビをつなぎます。
- 撮影操作は、カメラの画面を使ったときと同じです。

HDMIケーブル HTC-100（別売）でハイビジョンテレビにつないだときは、テレビに表示できません。

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。

1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AF フレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。

2 構図を変える

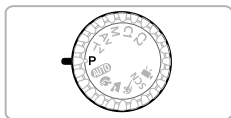
- シャッターボタンを半押ししたまま、カメラを動かして構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

5

もっとカメラを使いこなそう

この章では4章の応用編として、さらに多くの機能を使った撮影方法について説明しています。

- モードダイヤルが**P**モードになっていることを前提に説明しています。
- 「シャッタースピードを決めて撮る」（p.95）、「絞り数値を決めて撮る」（p.96）、「シャッタースピードと絞り数値を決めて撮る」（p.97）は、モードダイヤルをそれぞれのモードにしたときの説明をしています。
- 「ストロボ発光量を設定する」（p.101）は、モードダイヤルが**M**モードになっていることを前提に説明しています。
- 「色を変えて撮る」（p.103）、「スティッチアシストで撮る」（p.106）は、モードダイヤルを**SCN**にして、それぞれのモードを選んだときの説明をしています。
- この章で説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.180～183）。

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。

［AFフレーム］を選ぶ

● MENUボタンを押して、［📷］タブの［AFフレーム］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

アクティブ／中央

AFフレームが1点になります。確実なピント合わせに有効です。
また、［アクティブ］では、AFフレームの位置や大きさを変えることができます（p.85）。

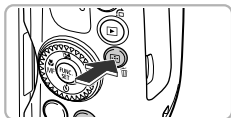
シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色のAFフレームと［❗］が表示されます。

顔優先

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、色あい（［AWB］時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

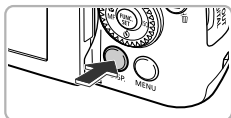
- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、中央にフレームが表示されます。
- サーボAF（p.86）が［入］で顔が検出されないときに、シャッターボタンを半押しすると中央にフレームが表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AFフレームは表示されません。

AFフレームの位置や大きさを変える

AFフレームモードが［アクティブ］（p.84）のときは、AFフレームの位置や大きさを変えることができます。

1 ボタンを押す

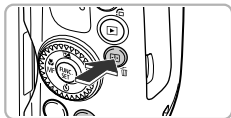
▶ AFフレームがオレンジ色になります。

2 AFフレームを移動する

- を回します。
- 微調整するには、▲▼◀▶を押します。
- ボタンを押したままにすると、AF フレームがもとの位置（中央）に戻ります。

3 AFフレームの大きさを変える

- DISP.ボタンを押します。

▶ AFフレームが小さくなります。

- もう一度DISP.ボタンを押すと標準の大きさに戻ります。

4 設定を完了する

- ボタンを押します。

- スポット測光枠の位置をAFフレームに連動させることができます（p.92）。
- デジタルズーム（p.58）やデジタルテレコンバーター（p.59）を使っているときは、AFフレームは［標準］の大きさになります。

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。

1 [ピント位置拡大] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[■] タブの [ピント位置拡大] を選び、◀か▶を押して [入] を選びます。

2 ピントを確認する

- シャッターボタンを半押しします。
- ▶ [顔優先] (p.84) では、主被写体として検出された顔が拡大表示されます。
- ▶ [アクティブ] または [中央] (p.85) では、AFフレームが拡大表示されます。

 拡大表示されない？

[顔優先] で顔が検出できないときや、顔が画面に対して大きいとき、[アクティブ] または [中央] でピントが合わないときは拡大表示されません。

デジタルズーム (p.58)、デジタルテレコンバーター (p.59)、サーボAF、テレビに表示しているとき (p.82) は拡大表示されません。

サーボAFで撮る

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

1 [サーボAF] を選ぶ

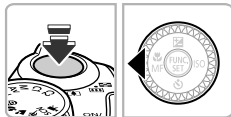
- MENUボタンを押して、[■] タブの [サーボAF] を選び、◀か▶を押して [入] を選びます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色でAFフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 暗い場所では、シャッターボタンを半押ししてもAFフレームが青色にならないときがあります。そのときは、設定しているAFフレームモードでピントと露出を合わせます。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を放して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AFロック撮影はできません。
- メニューの［📷］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- セルフタイマー（p.61、80、81）使用時は設定できません。

AFロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を放しても、ピント位置は固定されたままになります。

1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、◀を押します。
- ▶ ピントが固定され、[MF]とMFインジケーターが表示されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度◀を押し、◀か▶を押すか◎を回して［▲］を選ぶと解除されます。

2 構図を決めて撮影する

ピントを合わせたい人を選んで撮る（顔セレクト）

特定の人の顔を選んでピントを合わせ、撮影できます。

1 AFフレームを［顔優先］にする（p.84）

2 顔セレクトモードにする

- カメラを人に向け、ボタンを押します。
- ▶［顔セレクト：入］が表示されたあと、主被写体として検出された顔に［ ］が表示されます。
- ［ ］は、人が動いても一定の範囲で追尾します。
- 顔が検出されないと［ ］は表示されません。

3 ピントを合わせたい顔を選ぶ

- ボタンを押すと、検出された別の顔に［ ］が移動します。
- 検出された顔を一巡すると［顔セレクト：切］が表示され、設定しているAFフレームモードの画面に戻ります。

4 撮影する

- シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、［ ］が［ ］に変わります。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。

マニュアルフォーカスで撮る

オートフォーカスでピントが合わないときは、マニュアルフォーカスを使います。手動でおおよそのピントを合わせてからシャッターボタンを半押しすると、手動で合わせたピント位置の近傍で、もっともピントの合う位置に微調整されます。

1 [MF] を選ぶ

- ◀を押したあと、◀か▶を押すか◎を回して［MF］を選び、(FUNC. SET)を押します。
- ▶［MF］とMFインジケーターが表示されます。

MFインジケーター

2 おおよそのピントを合わせる

- MFインジケーターの距離表示とピント位置を示すバーを目安にして、拡大表示を見ながら、◎を回しておおよそのピントを合わせます。

3 ピントを微調整する

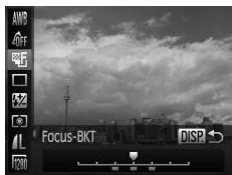
- シャッターボタンを半押しするか⊡ボタンを押すと、もっともピントが合う位置に微調整されます（セーフティ MF）。

- マニュアルフォーカス中は、AFフレームモードやAFフレームの大きさは変えられません（p.84）。AFフレームモードやAFフレームの大きさを変えるときは、一度マニュアルフォーカスを解除してください。
- 正確なピント合わせを行うには、三脚などでカメラを固定することをおすすめします。
- デジタルズーム（p.58）、デジタルテレコンバーター（p.59）を使用しているとき、テレビに表示しているとき（p.82）は拡大表示されませんが、ピント合わせはできます。
- MENUボタンを押して、［📷］タブの［MF拡大表示］で［切］を選ぶと、拡大表示されなくなります。
- MENUボタンを押して、［📷］タブの［セーフティ MF］で［切］を選ぶと、シャッターボタンを半押ししてもピントが微調整されなくなります。

ピント位置を自動的に変えて撮る（フォーカスブラケット撮影）

マニュアルフォーカスで設定したピント位置、後ろ寄りのピント位置、前寄りのピント位置の順に、3枚連続で撮影されます。また、ピント位置は3段階で設定できます。

1 ［ ］を選ぶ

- を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、◀か▶を押すか を回して［ ］を選びます。

2 ピント位置を設定する

- DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか を回して設定します。

- ［ ］（p.26）以外では、フォーカスブラケット撮影はできません。
- 連続撮影（p.78）はできません。
- ［ ］（p.81）で撮影枚数を設定しても、撮影される枚数は3枚です。
- p.89の手順1の画面で［ ］を選んですぐにDISP.ボタンを押すと、ピント位置の設定画面を表示できます。

ズーム中に見失った被写体をとらえなおす（フレーミングアシスト）

ズーム中に被写体を見失ったとき、いったんズーム倍率を下げて被写体を見つけやすくできます。

1 見失った被写体を探す

- ボタンを押したままにします。

▶ズーム倍率が下がり、ボタンを押す前の表示範囲の目安が白い枠で表示されます。

2 被写体をとらえなおす

- 白い枠の中に被写体が入るようにして、ボタンを放します。

▶元のズーム倍率に戻ります。

- ズーム倍率を下げている間は、一部の撮影情報は非表示になります。
- 手順1の画面でシャッターボタンを押すと、そのときのズーム倍率で撮影されます。
- 動画撮影中にボタンを操作しても白い枠は表示されません。また、ズーム倍率の変化や動作音も記録されます。
- セルフタイマー（p.61、80、81）、［ ］、［ ］でシャッターボタンを全押しした後は、フレーミングアシストは使えません。また、［ ］モードでボタンを押しているときは自動撮影されません。

ボタンを押しているときの表示範囲を変える

MENUボタンを押して、［ ］タブの［ 表示範囲］で3段階から選べます。

測光方式を変える

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。

1 測光方式を選ぶ

- FUNC.SETを押したあと、▲か▼を押して［評価測光］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すかダイヤルを回して項目を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

評価測光アイコン	評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
中央部重点平均測光アイコン	中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
スポット測光アイコン	スポット測光	［[　]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。スポット測光枠はAFフレームに連動させることもできます。

スポット測光枠をAFフレームに連動させる

1 ［スポット測光］を選ぶ

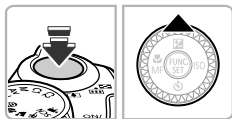
- 上記の手順2の操作で［スポット測光］を選びます。

2 ［スポット測光枠］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［撮影］タブの［スポット測光枠］を選び、◀か▶を押して［AF枠連動］を選びます。
- ▶ 移動した AF フレームに、スポット測光枠が連動します。

［AFフレーム］が［顔優先］（p.84）のときは設定できません。

AEロックで撮る

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。
AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

1 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶［✱］が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度▲を押すと、［✱］が消え解除されます。

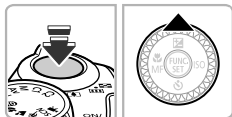
2 構図を決めて撮影する

プログラムシフト

露出を固定したあとに◎を回すと、シャッタースピードと絞り数値の組みあわせを変えることができます。

FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影と同様に固定できます。
FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

1 ストロボを持ち上げ、［⚡］を選ぶ（p.72）

2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、▲を押します。
- ▶ストロボが発光し、［✱］が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。

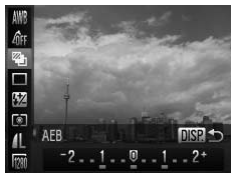
- シャッターボタンから指を放してもう一度▲を押すと、[✱]が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する

露出を自動的に変えて撮る（AEB撮影）

カメラが自動的に露出を変えながら、標準露出、マイナス補正、プラス補正の順に3枚連続で撮影されます。

1 ［ ］を選ぶ

- (FUNC./SET)を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選び、◀か▶を押すか◎を回して［ ］を選びます。

2 露出の補正量を設定する

- DISP.ボタンを押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して設定します。
- 補正量は、標準露出を中心に−2〜+2段の範囲で1/3段ずつ設定できます。なお、露出補正（p.73）をしているときは、その設定値が中心になります。

- ［ ］（p.26）以外では、AEB撮影はできません。
- 連続撮影（p.78）はできません。
- 露出補正（p.73）の画面で、DISP.ボタンを押すと、補正量の設定画面を表示できます。
- ［ ］（p.81）で撮影枚数を設定しても、撮影される枚数は3枚です。

シャッタースピードを決めて撮る

シャッタースピードを目的の値に設定して撮影できます。設定したシャッタースピードに応じて、カメラが自動的に絞り数値を設定します。
Tvは、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

1 モードダイヤルを**Tv**にする

2 設定する

● ◎ を回してシャッタースピードを設定します。

3 撮影する

シャッタースピードの設定範囲

15"、13"、10"、8"、6"、5"、4"、3"2、2"5、2"、1"6、1"3、1"、0"8、0"6、0"5、0"4、0"3、1/4、1/5、1/6、1/8、1/10、1/13、1/15、1/20、1/25、1/30、1/40、1/50、1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1000、1/1250、1/1500、1/1600、1/2000、1/2500、1/3200

- 2"は2秒、0"3は0.3秒、1/160は1/160秒を表しています。
- ストロボ発光時のシャッタースピードの上限は1/2000秒です。1/2000秒より速いシャッタースピードに設定しても、1/2000秒に自動設定されて撮影されます。
- ズーム位置によっては選べないシャッタースピードがあります。

- シャッタースピードが1.3秒またはそれより遅いときは、撮影後にノイズ軽減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- シャッタースピードを遅くしたときに三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.159）。

絞り数値がオレンジ色で表示されるときは？

シャッターボタンを半押ししたときに絞り数値がオレンジ色で表示されるときは、適正露出から外れています。絞り数値が白字で表示されるまで、シャッタースピードを変えます（セーフティシフトも使えます（p.96））。

絞り数値を決めて撮る

絞り数値を目的の値に設定して撮影できます。設定した絞り数値に応じて、カメラが自動的にシャッタースピードを設定します。
Avは、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

1 モードダイヤルを Av にする

2 設定する

- ◎を回して絞り数値を設定します。

3 撮影する

絞り数値の設定範囲

F2.7、F3.2、F3.5、F4.0、F4.5、F5.0、F5.6、F5.8、F6.3、F7.1、F8.0

ズーム位置によっては、選べない絞り数値があります。

シャッタースピードがオレンジ色で表示されるときは？

シャッターボタンを半押ししたときにシャッタースピードがオレンジ色で表示されるときは、適正露出から外れています。シャッタースピードが白字で表示されるまで、絞り数値を変えます（セーフティシフトも使えます（下記））。

セーフティシフト

Tv、**Av**のとき、MENUボタンを押して、[📷] タブの [セーフティシフト] を [入] にすると、適正露出が得られないときでも、自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されて、適正露出で撮影できます。
ただし、ストロボ発光時は機能しません。

シャッタースピードと絞り数値を決めて撮る

シャッタースピードと絞り数値を個別に設定して、目的の露出で撮影できます。
Mは、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを**M**にする

2 設定する

- ▲を押して、シャッタースピードまたは絞り数値を選びます。
- ◎を回して設定します。
- ▶ 設定した値に連動して、露出レベルマークが移動し、適正露出からの差が確認できます。
- ▶ 適正露出から±2段を越えると、露出レベルマークはオレンジ色で表示され、シャッターボタンを半押しすると右下に［+2］または、［－2］とオレンジ色で表示されます。

- 適正露出は設定している測光方式（p.92）で算出されます。
- 設定後にズーム操作をしたり構図を変えると、露出レベルマークが移動することがあります。
- シャッタースピードと絞り数値の設定により、画面の明るさが変わります。ただし、ストロボを上げてストロボモードを［⚡］にすると画面の明るさは変わりません。
- シャッターボタンを半押ししながら ▲ を押すと、シャッタースピードまたは絞り数値のうち手順2で選んでいない方が自動設定されて適正露出になります（設定によっては適正露出にならないことがあります）。

明るさを補正して撮る（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。

［i-コントラスト］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［i-コントラスト］を選び、◀か▶を押して［自動］を選びます。
- ▶ 設定されると、［Ci］が表示されます。

撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。

撮影した画像を補正することもできます（p.139）。

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。

1 ［ストロボ制御］を選ぶ

- MENU ボタンを押して［📷］タブの［ストロボ制御］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して［赤目自動補正］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。
- ▶ 設定されると、［◎］が表示されます。

化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.140）。
- ⚡ボタンを1秒以上押すか、ストロボを上げているときに⚡ボタンを押してからすぐにMENUボタンを押すことで、手順2の画面を表示することができます。

スローシンクロで撮る

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

1 ストロボを持ち上げる

2 ［⚡★］を選ぶ

- ⚡ボタンを押したあと、◀か▶を押すか◎を回して［⚡★］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［⚡★］が表示されます。

3 撮影する

- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.159）。

ストロボの調光量を補正する

ストロボ撮影時の露出を露出補正（p.73）と同様に、1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。

1 ［ ］を選ぶ

- を押したあと、▲か▼を押して［ ］を選びます。

2 設定する

- ◀か▶を押すか を回して補正量を選び、 を押します。
- ▶ 設定されると、［ ］が表示されます。

セーフティ FE

ストロボ発光時に、露出オーバーで適正露出が得られないときは、自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されて白トビを軽減し、適正露出で撮影できます。なお、MENUボタンを押して、［ ］タブの［ストロボ制御］で［セーフティ FE］を［切］に設定すると、自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されなくなります。

- ストロボ調光補正は、MENUボタンを押して、［ ］タブの［ストロボ制御］（p.98）から［調光補正］を選び、◀か▶を押して設定することもできます。
- ボタンを1秒以上押すか、ストロボを上げているときに ボタンを押してからすぐにMENUボタンを押すことで、設定画面を表示することができます。

ストロボ発光量を設定する

Mモードでは、ストロボの発光量を3段階から選べます。

1 モードダイヤルを**M**にする

2 ストロボ発光量を選ぶ。

- (FUNC./SET)を押したあと、▲か▼を押して［⚡½］を選びます。

3 設定する

- ◀か▶を押すか◎を回して発光量を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶ 設定されると、［⚡½］が表示されます。

- ストロボ発光量は、MENUボタンを押して、［📷］タブの［ストロボ制御］（p.98）から［発光量］を選び、◀か▶を押して設定することもできます。
- **Tv**モードや**Av**モードでは、MENUボタンを押して、［📷］タブの［ストロボ制御］で［発光モード］を［マニュアル］に設定するとストロボ発光量が設定できます。
- ⚡ボタンを1秒以上押すか、ストロボを上げているときに⚡ボタンを押してからすぐにMENUボタンを押すことで、設定画面を表示することができます。

目をつむった人を確認する

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、［😑］を表示してお知らせします。

1 ［目つむり検出］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［📷］タブの［目つむり検出］を選び、◀か▶を押して［入］を選びます。

2 撮影する

▶ 目をつむった人を検出したときは、枠と［ ］が表示されます。

- ［ ］［ ］で撮影枚数を2枚以上に設定したときは、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- ［ ］［ ］では、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- ［ ］［ ］［ ］では設定できません。

撮影の設定を登録する

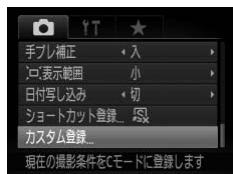
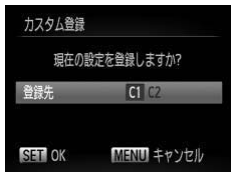
よく使う撮影モードと、自分好みに設定した各機能の設定を登録することができます。登録された設定へは、モードダイヤルを **C1** か **C2** にあわせるだけで、切り換えることができます。また、撮影モードを切り換えたり、電源を切ったりすると解除されてしまう設定（セルフタイマーなど）も記憶します。

登録できる設定

- 撮影モード（**P**、**Tv**、**Av**、**M**）
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**で設定できる項目（p.73〜97）
- 撮影メニューの設定内容
- ズーム位置
- マニュアルフォーカス位置（p.89）
- マイメニューの設定内容（p.161）

1 登録したい撮影モードにして、各種機能を設定する

2 ［カスタム登録］を選ぶ

- **MENU**ボタンを押して、［ ］タブの［カスタム登録］を選び、 を押します。

3 登録する

- ◀か▶を押すか◎を回して登録先を選び、(FUNC. SET)を押します。

- 一度登録した、設定の一部（撮影モード以外）を変えるときは、**C1**か**C2**を選んで設定を変え、もう一度手順2～3を行います。この設定内容は、ほかの撮影モードには反映されません。
- **C1**や**C2**に登録した設定を初期状態に戻すときは、モードダイヤルを**C1**か**C2**にして［初期設定］（p.53）を行います。

色を変えて撮る

画像の色を変えて撮影できます。ただし、撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

ワンポイントカラー

画面内の指定した1色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。

1 ［ワンポイントカラー］を選ぶ

- p.63の手順1～2の操作で［ワンポイントカラー］を選びます。

2 DISP.ボタンを押す

- ▶ 色を変える前の画像とワンポイントカラーの画像が交互に表示されます。
- 初期状態では、残る色が緑色に設定されています。

取り込まれた色

3 残す色を指定する

- 残したい色が中央の枠いっぱいに入るようにして、◀を押します。
- ▶ 指定した色が取り込まれます。

4 残す色の範囲を指定する

- ▲か▼を押すか◎を回して、残したい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを残すときは－の値を大きくします。指定した色に近い色も残すときは+の値を大きくします。
- DISP.ボタンを押すと、撮影画面に戻ります。

ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。

スイッチカラー

画面内の指定した1色を別の色に変えて撮影できます。別の色の取り込みは1色のみです。

1 [✐S] を選ぶ

- p.63の手順1～2の操作で[✐S] を選びます。

2 DISP.ボタンを押す

- ▶ 色を変える前の画像とスイッチカラーの画像が交互に表示されます。
- 初期状態では、緑色を灰色に変えるよう設定されています。

3 変える前の色を指定する

- 中央の枠いっぱいに入るようにして◀を押します。
- ▶ 指定した色が取り込まれます。

4 変えたあとの色を指定する

- 中央の枠いっぱいに入るようにして▶を押します。
- ▶ 指定した色が取り込まれます。

5 変えたあとの色の範囲を指定する

- ▲か▼を押すか◎を回して、変えたい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを変えるときは－の値を大きくします。指定した色に近い色も変えるときは+の値を大きくします。
- DISP.ボタンを押すと、撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなることがあります。

スティッチアシストで撮る

大きな被写体を分割して撮影し、パソコンで付属のソフトウェアを使って合成処理をすると、パノラマ画像が作れます。

1 [ ] か [ ] を選ぶ

- p.63の手順1〜2の操作で［ ］または［ ］を選びます。

2 1枚目の画像を撮影する

▶ 1枚目の撮影で、露出や色あいが固定されます。

3 2枚目以降を撮影する

- 1枚目の画像に重ねるようにして、2枚目の画像を撮影します。
- 重ねかたが多少ズレても、合成時に自動補正されます。
- 2枚目の撮影と同様の操作で最大26枚まで撮影できます。

4 撮影を終える

- (FUNC. SET)を押します。

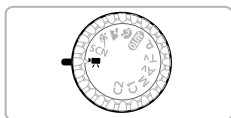
5 パソコンで合成する

- 画像の合成方法については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

- テレビに表示しながらの撮影はできません（p.82）。
- AFロックするときは、S ボタンに[AFL]を登録してください(p.160)。

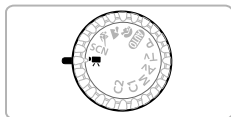
6

動画のいろいろな機能を使ってみよう

この章では、1章の「動画を撮る」「動画を見る」の応用編として、さらにいろいろな機能を使って動画を撮る、見る方法について説明しています。

- モードダイヤルが 'ᗅ モードになっていることを前提に説明しています。動画ボタンを押して撮影したとき（p.30）と比べ、いろいろな機能を使って動画を撮影することができます（p.108～113）。
- 動画の再生や編集は、▶ ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

'ᗅ以外のモードで動画を撮る

- 動画ボタンを押すと動画を撮影できます。ただし、あらかじめ設定したFUNC.メニューや撮影メニューの一部が、動画撮影時の設定にあわせて自動的に変わることがあります。
- モードダイヤルが AUTO のときは、カメラが撮影シーンを自動判別して動画撮影（p.30）ができます。
- 動画撮影を停止すると、動画撮影前の設定に戻ります。

🎥モードで動画を撮る

1 🎥モードにする

- モードダイヤルを🎥にします。

2 目的に応じて各機能を設定する（p.108～113）

3 撮影する

- 動画ボタンを押します。
- 動画ボタンをもう一度押すと撮影が終わります。

動画モードを変える

4種類のモードから選べます。

動画モードを選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［🎥］を選びます。
- ◀か▶を押すか◎を回してモードを選び、(FUNC/SET)を押します。

🎥 スタンダード	標準モードです。
ジオラマ風	ミニチュア模型のような効果をつけて撮影できます（p.109）。
ワンポイントカラー	指定した色以外を白黒にしたり、指定した色を別の色に変えて撮影できます。操作方法は「色を変えて撮る」（p.103）を参照してください。なお、動画を撮影する前に、残す色、変える色などを選んでおいてください。
スイッチカラー	

［ワンポイントカラー］［スイッチカラー］では、撮影シーンによっては、思いどおりの色にならないことがあります。

- ［ジオラマ風］のときに動画ボタンを押すと、［🎥］で撮影されます。
- ［ワンポイントカラー］［スイッチカラー］のときに動画ボタンを押しても、ワンポイントカラー（p.103）、スイッチカラー（p.104）で撮影できます。

ミニチュア模型のような動画を撮る（ジオラマ風）

ミニチュア模型が動いているような動画が撮影できます。
画面上下の「ぼかす範囲」と「再生時の速さ」を選んで撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。

1 [ ] を選ぶ

- p.108の「動画モードを変える」の操作で[ ] を選びます。
- ▶ 画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

2 ピントの合う範囲と位置を指定する

- DISP.ボタンを押します。
- ズームレバーを押して枠の大きさを変えたり、▲か▼を押して枠の位置を変えます。

3 再生時の速さを選ぶ

- MENUボタンを押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して倍速（速さ）を選びます。
- MENUボタンを押して撮影画面に戻ります。

4 撮影する

- 動画ボタンを押します。
- 動画ボタンをもう一度押すと撮影が終わります。

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5x	12秒
10x	6秒
20x	3秒

- 手順2の画面で(FUNC/SET)を押すと枠の縦横が変わり、枠を縦にしたときは◀か▶を押すと枠の位置を変えられます。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

画質を変える

3種類の画質から選べます。

1 画質を選ぶ

- (FUNC/SET)を押したあと、▲か▼を押して［1280］を選びます。

2 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

画質の一覧

画質（記録画素数／フレーム数）	内容
1280 1280×720画素／30フレーム/秒	ハイビジョン動画です。
640 640×480画素／30フレーム/秒	標準的な動画です。
320 320×240画素／30フレーム/秒	［640］より記録画素数が小さくなるため、画質は粗くなりますが、撮影時間を約3倍にできます。

撮影時間の目安

画質 ＼ カードの容量	4GB	16GB
1280	20分43秒	1時間24分54秒
640	43分43秒	2時間59分3秒
320	1時間58分19秒	8時間4分30秒

- 当社測定条件によるものです。
- 一度の撮影で動画の容量が4GBになるか、撮影時間が 1280 では約29分59秒、640、320 では約1時間になると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス4以上のカードを使用することをおすすめします。

［640］［320］では、静止画の記録画素数が［W］のとき、静止画を撮影できる範囲が灰色のフレームで表示されます。

動画撮影中に静止画を撮る

動画の撮影中でも静止画を撮ることができます（フォト・イン・ムービー）。

1 動画撮影中に、ピントを合わせる

- ［📷］が表示されていることを確認し、シャッターボタンを半押しします。
- ▶ピントと露出が再調整されます（電子音は鳴りません）。
- ▶動画撮影は継続されます。

2 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ▶静止画が撮影されます。

- ［1280］の動画撮影中に撮れる静止画の記録画素数（p.74）は［W］です。
- ［640］［320］の動画撮影中は、静止画で設定した記録画素数（p.74）で静止画を撮ることができます。ただし、［💡］モード時と、静止画の記録画素数が［W］のときは、［L］で撮影されます。
- 静止画を撮影したとき、動画には黒い画面とシャッター音が記録されます。

- ストロボは発光しません。
- 画像の右下に撮影日時を記録することはできません。
- ISO感度は［AUTO］になります。
- i-コントラスト（p.98）はできません。
- 静止画を撮ると内部メモリーの空きがなくなり、動画撮影が止まることがあります。
- ［ ］では動画撮影中に静止画を撮ることはできません。
- ［ ］［ ］では、ワンポイントカラー（p.103）、スイッチカラー（p.104）で撮影できます。

［ ］の表示が変わって、静止画が撮れない？

カードの記録速度が遅いときや、内部メモリーの空きがないときは、静止画を撮れないことがあります。

- ［ ］（点滅）：書き込み処理中です。点滅が終わると撮影できます。
- ［ ］：内部メモリーの空きがないため静止画を撮れません。

AEロック／露出シフト

撮影前や撮影中に露出を固定したり、露出を1/3段ずつ、±2段の範囲で変えられます。

1 露出を固定する

- ▲を押すと露出が固定されて露出シフトバーが表示されます。
- もう一度▲を押すと解除されます。

2 露出を変える

- 画面を見ながら、 を回して露出を変えます。

3 撮影する

- 動画ボタンを押します。
- 動画ボタンをもう一度押すと撮影が終わります。

音声を設定する

録音音量を変える

動画の録音音量を手動で設定できます。

- MENUボタンを押して、[■]タブの[動画音声]を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して[マイク]を選び、◀か▶を押して[マニュアル]を選びます。

オート	音割れを軽減するために、録音音量を自動的に調整します。
マニュアル	▼を押したあと、◀か▶で録音レベル（録音音量）を設定します。

ウィンドカットを使う

風が強いときに発生する雑音を低減できます。ただし、風がない場所で録音したときは、不自然な音になることがあります。

- MENUボタンを押して、[■]タブの[動画音声]を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して[ウィンドカット]を選び、◀か▶を押して[入]を選びます。

その他の撮影機能の操作方法

次の機能は、静止画と同じ操作方法で使えます。[■][■][■]では、＊のついた機能は静止画と同じ操作方法で使えます。

- **被写体を拡大する**
  - [■]では光学ズーム、デジタルズーム（p.58）ができます。
  - [■][■]では、光学ズームだけを使えます。
  - [■]は撮影中に光学ズーム、デジタルズームとも使えません。そのため、撮影前に光学ズームで倍率を変えてください。
  - 撮影中のズーム操作音は記録されます。

- セルフタイマーを使う（p.61）*
- 近くの被写体を撮る（マクロ撮影）（p.73）*
［ ］ではマクロ撮影はできません。
- 色あいを調整する（ホワイトバランス）（p.77）
- 画像の色調を変える（マイカラー）（p.79）
- セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ（p.80）*
- セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える（p.81）*
撮影枚数は設定できません。
- テレビを使って撮る（p.82）*
- AFロックで撮る（p.87）*
- マニュアルフォーカスで撮る（p.89）*
- AF補助光（ランプ）を切る（p.156）*
- 情報の表示内容を設定する（p.158）*
- 手ブレ補正の設定を変える（p.159）*
［入］、［切］の切り換えができます。
- S ボタンによく使う機能を登録する（p.160）*

再生機能の操作方法

次の機能は、静止画と同じ操作方法で使えます。

- 消す（p.29）
- 画像を素早く探す（p.118）
- 条件で絞り込んで画像を表示する（p.119）
- スライドショーで見る（p.121）
- 画像を切り換えたときの効果を変える（p.124）
- テレビで見る（p.125）
- ハイビジョンテレビで見る（p.126）
- 保護する（p.127）
- まとめて消す（p.130）
- お気に入りを設定する（p.132）
- 画像を分類する（マイカテゴリー）（p.133）
- 回転する（p.135）

「動画を見る」（p.32）で表示される動画操作パネル一覧

⮌	終了
▶	再生
▶	スロー再生（◀か▶を押すか◎を回して再生速度を変更。音声は再生されません）
⏮	先頭フレームを表示
◀‖	フレーム戻し（FUNC.SETを押し続けると早戻し）
‖▶	フレーム送り（FUNC.SETを押し続けると早送り）
⏭	最終フレームを表示
✂	編集
凸	PictBridge対応プリンターとつないだとき（p.142）に表示。 「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。

編集する

撮影した動画の前後を削除できます。

1 ［✂］を選ぶ

- p.32の手順1～3の操作で［✂］を選び、FUNC.SETを押します。
- ▶ 動画編集パネルと動画編集バーが表示されます。

動画編集パネル

動画編集バー

2 編集範囲を指定する

- ▲か▼を押して［✂前］または［後✂］を選びます。
- ◀か▶を押すか◎を回して［▮］を動かすと、編集できる所で［✂］が表示されます。［✂前］を選ぶと［✂］位置より前部、［後✂］を選ぶと後部が削除されます。

- [▮]を[✂]以外の位置に指定しても、[✂]では1つ左側の[✂]位置よりも前部、[✂]では1つ右側の[✂]位置よりも後部が削除されます。
- [▮]で指定した範囲が、動画として残る範囲になります。

3 編集した動画を確認する

- ▲か▼を押して[▶]を選び、(FUNC/SET)を押すと、編集した動画が再生されます。
- もう一度編集するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、▲か▼を押して[↩]を選び(FUNC/SET)を押したあと、◀か▶を押すか◎を回して[OK]を選び、(FUNC/SET)を押します。

4 編集した動画を保存する

- ▲か▼を押して[保存]を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲▼◀▶を押すか◎を回して[新規保存]を選び、(FUNC/SET)を押します。
- 別動画として保存されます。

- 手順4で[上書き保存]を選んだときは、編集内容が上書きされるため、編集前の動画は残りません。
- カードの空き容量が足りないときは、[上書き保存]しか選べません。
- 動画の保存中にバッテリーがなくなると、保存できないことがあります。
- 編集するときは、フル充電されたバッテリーかACアダプターキット(別売)(p.39)を使うことをおすすめします。

7

いろいろな再生と編集機能を使ってみよう

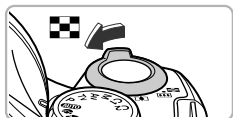
この章では、いろいろな画像の再生方法や編集方法について説明しています。

- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。
- 編集機能（p.136～140）は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を素早く探す

インデックス表示で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。

1 ズームレバーを▦側へ押す

▶インデックス表示になります。

- ズームレバーを▦側へ押すごとに、表示される画像の数が増えます。
- ズームレバーをQ側へ押すごとに、表示される画像の数が減ります。

2 画像を選ぶ

- ◎を回して表示画像を切り換えます。
- ▲▼◀▶を押して画像を選びます。

▶選ばれている画像にはオレンジ色の枠が表示されます。

- (FUNC/SET)を押すと、選ばれている画像が1枚表示になります。

コントローラーホイールを使って探す

コントローラーホイールを回すと、画像を一列に表示しながら素早く画像を探せます。また、日付ごとにジャンプすることもできます（スクロール再生）。

画像を選ぶ

- 1枚表示にして、◎を速く回すと左の画面が表示されます。この状態で◎を回して画像を選びます。
- (FUNC/SET)を押すと1枚表示に戻ります。
- スクロール再生中に▲か▼を押すと、日付ごとにジャンプして画像を探せます。

この効果を使わないようにするには、MENUボタンを押して［▶］タブの［スクロール再生］を選び、［切］を選びます。

条件で絞り込んで画像を表示する

カード内に多くの画像があるときは、条件を指定して表示する画像を絞り込むことができます。この状態で画像をまとめて保護したり（p.127）、消したり（p.130）することができます。

お気に入りジャンプ	お気に入り設定した画像（p.132）を表示
日付ジャンプ	指定した撮影日の画像を表示
マイカテゴリージャンプ	指定したカテゴリー（p.133）の画像を表示
静止画/動画ジャンプ	静止画または動画のみを表示
10枚ジャンプ	画像を10枚ずつとばして表示
100枚ジャンプ	画像を100枚ずつとばして表示

［ ］［ ］［ ］［ ］で探す

絞り込む対象

1 絞り込む対象を選ぶ

- 1 枚表示の状態で ボタンを押したあと、▲か▼を押してジャンプ方法を選びます。
- ［ ］［ ］［ ］では、◀か▶を押して、絞り込む対象を選びます。 を回すと、選択中の画像と同じ条件の画像だけが表示されます。
- DISP.ボタンを押すと、情報の非表示／表示を切り換えられます。
- MENU ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。

2 絞り込み再生で見る

- FUNC. SET を押すと絞り込み再生になり、ジャンプ方法と黄色の枠が表示されます。
- ◀か▶を押すか を回すと、選んだ対象の画像のみが表示されます。
- ボタンを押すと［現在の絞り込み再生は解除されました］と表示されます。FUNC. SET を押すと絞り込み再生が解除されます。

対象が選べない？

目的の条件と一致する画像がないときは、条件を選べません。

絞り込み再生について

絞り込み再生の状態（手順2）で、「画像を素早く探す」（p.118）、「スライドショーで見る」（p.121）、「拡大して見る」（p.123）などで、絞り込んだ画像を見ることができます。また、「保護する」（p.127）、「まとめて消す」（p.130）、「印刷指定（DPOF）」（p.145）で「すべての絞り込み対象画像」を指定すると、絞り込んだ画像をまとめて操作することができます。
ただし、カテゴリーを変えたり（p.133）、画像を編集して新規保存（p.136）などを行うとメッセージが表示され、絞り込み再生が解除されます。

［ ］［ ］でとばす

- 1枚表示の状態で ボタンを押したあと、▲か▼を押してジャンプ方法を選びます。
- ◀か▶を押すと、選んだ単位で画像をとばして表示されます。
- MENU ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。

1 ［スライドショー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［スライドショー］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選び、◀か▶を押して設定します。

リピート	繰り返し再生するかどうか
再生間隔	画像1枚あたりの表示時間
効果	画像を切り換えたときの見えかた

3 ［スタート］を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して［スタート］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- もう一度(FUNC SET)を押すと一時停止／再開ができます。
- MENUボタンを押すと終わります。

- 再生中に◀か▶を押すか◎を回すと画像を切り換えられ、◀か▶を押したままにすると早送りできます。
- スライドショー中に節電機能（p.52）は働きません。
- ［効果］で［バブル］を選んだときは、［再生間隔］は変えられません。
- 1 枚表示の状態で、(FUNC SET) を押したまま、すぐに ボタンを押してスライドショーを開始することもできます。

ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影時にピント合わせをしたAFフレームの位置や、顔を検出して撮影された顔の部分を、拡大表示することができます。

1 DISP.ボタンを押して、ピント位置確認表示にする（p.46）

▶ ピント合わせを行ったAF フレームや顔の位置に、白のフレームが表示されます。

▶ 再生時に検出された顔の位置には、灰色のフレームが表示されます。

▶ オレンジ色のフレームの箇所が拡大表示されます。

2 拡大表示する箇所を変える

● ズームレバーをQ側へ一度押します。

▶ 左の画面が表示されます。

● 複数のフレームが表示されているときは、(FUNC. SET)を押すと別のフレームに移動します。

3 拡大率や表示位置を変える

● ズームレバーを操作して表示倍率を変えたり、▲▼◀▶を押して表示位置を変えながら確認します。

● MENUボタンを押すと、手順1に戻ります。

拡大して見る

表示位置の目安

ズームレバーを🔍側へ押す

- 拡大表示になり、押し続けると最大約 10 倍まで拡大できます。
- ▲▼◀▶を押すと、表示位置が移動します。
- ズームレバーを▦側へ押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。
- ◎を回すと拡大したまま画像を切り換えられます。

拡大表示のときにMENUボタンを押すと、すぐに1枚表示に戻すことができます。

いろいろな画像を表示する（連想再生）

表示している画像をもとに、4つの画像をカメラが選んで表示します。その中から1つ選ぶとさらに4つの画像が表示されるので、思いがけない順番の再生が楽しめます。いろいろなシーンの画像をたくさん撮ったあとなどにおすすめです。

1 ［連想再生］を選ぶ

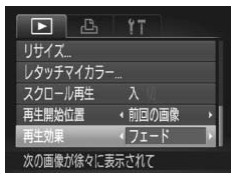
- MENUボタンを押して、［▶］タブの［連想再生］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 4枚の画像が候補として表示されます。

2 画像を選ぶ

- ▲▼◀▶を押して次に見たい画像を選びます。
- ▶ 選んだ画像が画面中央に表示され、次の4枚の候補が表示されます。
- (FUNC SET) を押すと画面中央の画像が画面いっぱいに表示されます。もう一度(FUNC SET)を押すと、もとの表示に戻ります。ズームレバーでも操作できます。
- MENU ボタンを押すと 1 枚表示に戻ります。

- このカメラで撮影した静止画だけが連想再生の対象になります。
- 次のときは［連想再生］を使えません。
  - このカメラで撮影した静止画が50枚に満たないとき
  - 対象の画像以外を表示しているとき
  - 表示する画像を絞り込んでいるとき

画像を切り換えたときの効果を変える

1枚表示で画像を切り換えたときの見えかた（効果）を、3種類から選べます。

［再生効果］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［再生効果］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

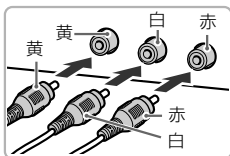
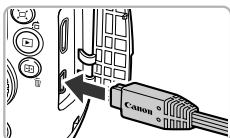
テレビで見る

付属のステレオAVケーブル（p.2）でカメラとテレビをつなぎ、撮影した画像を見ることができます。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

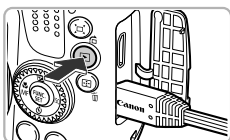
● ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。

● ケーブルのプラグを、図のようにテレビの入力端子へしっかりと差し込みます。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをケーブルでつないだ入力にする

4 カメラの電源を入れる

● ▶ボタンを押して電源を入れます。

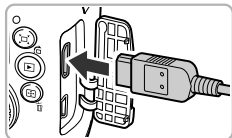
▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。

● 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

? 画像がテレビに正しく表示されないときは？

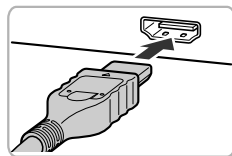
出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。**MENU**ボタンを押して、［ Ÿ† ］タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

ハイビジョンテレビで見る

HDMIケーブル HTC-100（別売）を使うと、ハイビジョンテレビにつないで臨場感のある画像を楽しめます。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子へしっかりと差し込みます。

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビのHDMI端子へしっかりと差し込みます。

3 画像を表示する

- p.125の手順3～4の操作で画像を表示します。

ハイビジョンテレビにつないだときは、操作音は鳴りません。

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.29、130）で誤って消さないよう、保護することができます。

指定方法を選ぶ

1 ［保護］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［保護］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押すか(◎)を回して指定方法を選び、(FUNC./SET)を押します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

カードを初期化（p.23、54）すると、保護された画像も消えます。

保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 画像を選び指定する

- ◀か▶を押すか(◎)を回して画像を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▶［O-π］が表示されます。
- もう一度(FUNC./SET)を押すと［O-π］が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 保護する

- MENUボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC./SET)を押します。

> 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

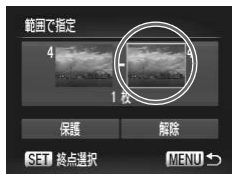
範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

- p.127の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 始点の画像を指定する

- (FUNC./SET)を押します。

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC./SET)を押します。

3 終点の画像を指定する

- ▶を押して［終点選択］にし、(FUNC./SET)を押します。

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC SET)を押します。
- 始点より前の画像は選べません。

4 保護する

- ▼を押して[保護]を選び、(FUNC SET)を押します。

◎で選ぶ

手順2、3の上側の画面では、◎を回して、始点、終点の画像を選ぶこともできます。

すべての画像を指定する

1 [全画像] を選ぶ

- p.127の手順2の操作で[全画像]を選び、(FUNC SET)を押します。

2 保護する

- ▲か▼を押すか◎を回して[保護]を選び、(FUNC SET)を押します。

「範囲で指定する」の手順4、「すべての画像を指定する」の手順2で[解除]を選ぶと、選んだ画像の保護をまとめて解除することができます。

まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。保護された画像（p.127）は消えません。

指定方法を選ぶ

1 ［消去］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［消去］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して指定方法を選び、(FUNC/SET)を押します。
- MENUボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

▶ p.127の手順2の操作で画像を選ぶと、［✔］が表示されます。

- もう一度(FUNC/SET)を押すと［✔］が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

3 消す

- MENUボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。

範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

- p.130の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 画像を指定する

- p.128の手順2〜3の操作で指定します。

3 消す

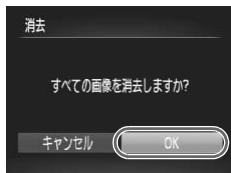
- ▼を押して［消去］を選び、(FUNC SET)を押します。

すべての画像を指定する

1 ［全画像］を選ぶ

- p.130の手順2の操作で［全画像］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 消す

- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC SET)を押します。

お気に入り設定をする

お気に入りを設定すると、設定した画像だけをかんたんに分類できます。設定した画像だけを絞り込んで見る、保護する、消すの操作ができます（p.119）。

1 ［お気に入り］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［お気に入り］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［★］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと［★］が消え、解除されます。
- 別の画像も選ぶときは、上記の操作を繰り返します。

3 設定する

- MENUボタンを押すと、確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、お気に入りが設定されません。

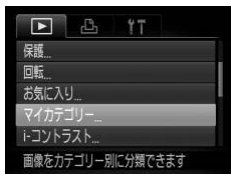
Windows 7またはWindows Vistaをお使いのときは、お気に入り設定した画像をパソコンに取り込むと、評価が3（★★★☆☆）に設定されます（動画を除く）。

画像を分類する（マイカテゴリー）

画像を種類別に分類できます。また、種類別に絞り込んで表示した状態（p.119）で次の機能を使うと、分類した画像をまとめて操作することができます。

- スライドショーで見る（p.121）、保護する（p.127）、まとめて消す（p.130）、印刷指定（DPOF）（p.145）

撮影時には、シーンに応じて自動で分類されます。
：顔が検出された画像、または［ ］モードで撮影した画像
：AUTOモード時に［ ］［ ］［ ］モードと判別された画像、または［ ］［ ］モードで撮影した画像
：［ ］［ ］［ ］［ ］モードで撮影した画像

指定方法を選ぶ

1 ［マイカテゴリー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［ ］タブの［マイカテゴリー］を選び、FUNC.SETを押します。

2 指定方法を選ぶ

- ▲か▼を押すか ◎ を回して指定方法を選び、FUNC.SETを押します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の手順2の操作で［画像指定］を選び、FUNC.SETを押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。

3 カテゴリーを選ぶ

- ▲か▼を押してカテゴリーを選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度(FUNC/SET)を押すと［✓］が消え、解除されます。
- 別の画像も選ぶときは、上記の操作を繰り返します。

4 設定する

- MENU ボタンを押すと確認画面が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して [OK] を選び、(FUNC/SET)を押します。

> 手順4の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、マイカテゴリーが設定されません。

範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

- p.133の手順2の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を指定する

- p.128の手順2～3の操作で指定します。

3 カテゴリーを選ぶ

- ▼を押して種類の項目を選び、◀か▶を押すか◎を回してカテゴリーを選びます。

4 設定する

- ▼を押して［設定］を選び、(FUNC.SET)を押します。

手順4で［解除］を選ぶと、［範囲で指定］した画像のカテゴリーを、まとめて解除することができます。

回転する

画像の向きを変えて保存することができます。

1 ［回転］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［回転］を選び、(FUNC.SET)を押します。

2 回転する

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。
- ▶ (FUNC.SET)を押すたびに90度単位で回転します。
- MENUボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。

画質が［1280］の動画は回転できません。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。

1 ［リサイズ］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［リサイズ］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 大きさを選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して大きさを選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶［新規保存しますか？］が表示されます。

4 新規保存する

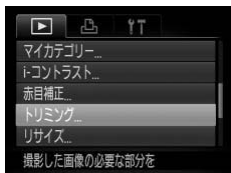
- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶別画像として保存されます。

5 画像を確認する

- MENUボタンを押すと、［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ◀か▶を押すか◎を回して［はい］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶保存した画像が表示されます。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。
- 記録画素数が［W］の画像（p.74）や、手順3で［XS］にした画像は、編集できません。

画像を切り抜く（トリミング）

撮影した画像の必要な部分を切り抜き、別画像として保存できます。

切り抜き範囲

切り抜き範囲の表示

切り抜き後の記録画素数

1 ［トリミング］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［トリミング］を選び、(FUNC.SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC.SET)を押します。

3 切り抜く範囲を調整する

▶ 画像を切り抜く範囲が枠で表示されます。

▶ 左上にもと画像、右下に切り抜き後の画像が表示されます。

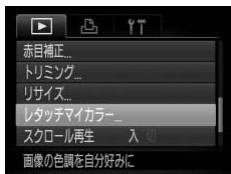
- ズームレバーを左右に押すと枠の大きさが変えられます。
- ▲▼◀▶を押すと枠の位置が移動できます。
- DISP.ボタンを押すと、枠の縦横が変えられます。
- 顔が検出された画像では、左上の画面の顔の位置に灰色の枠が表示されます。◎を回すと別の枠に切り換わり枠を中心にトリミングできます。
- (FUNC.SET)を押します。

4 新規保存して画像を確認する

- p.136の手順4～5の操作を行います。

- 記録画素数が［S］［W］の画像（p.75）や、リサイズした［XS］の画像（p.136）は、編集できません。
- トリミングできる画像の縦横比率は4:3固定となります。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。

画像の色調を変える（レタッチマイカラー）

画像の色調を変え、別画像として保存できます。各項目の内容はp.79を参照してください。

1 ［レタッチマイカラー］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［レタッチマイカラー］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。

4 新規保存して画像を確認する

- p.136の手順4～5の操作を行います。

同じ画像に対して色調を繰り返し変えると、画質が徐々に低下したり、思いどおりの色にならないことがあります。

撮影時のマイカラー（p.79）と色調が若干異なることがあります。

明るさを補正する（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は4種類から選べ、別画像として保存できます。

1 ［i-コントラスト］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［i-コントラスト］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。

3 項目を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC/SET)を押します。

4 新規保存して画像を確認する

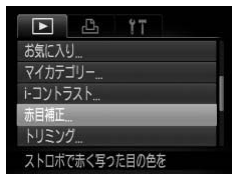
- p.136の手順4～5の操作を行います。

- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

？［自動］では思いどおりに補正されない？

［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。

1 ［赤目補正］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［▶］タブの［赤目補正］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。

3 補正する

- (FUNC/SET)を押します。
- ▶ 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」（p.123）の操作で画像を拡大／縮小できます。

4 新規保存して画像を確認する

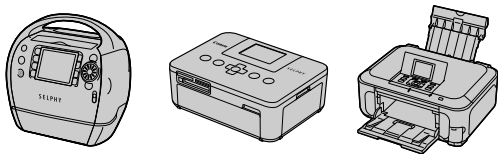
- ▲▼◀▶を押すか◎を回して［新規保存］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 別画像として保存されます。
- p.136の手順5の操作を行います。

- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

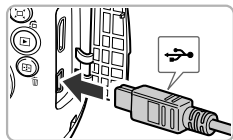
8

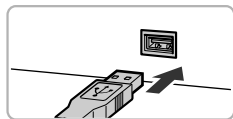
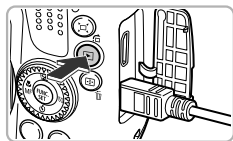
印刷してみよう

この章では、撮影した画像を別売のキヤノン製PictBridge対応プリンター（p.41）で印刷する方法や、印刷する画像の指定方法について説明しています。
「はじめよう！おうちプリント」（p.2）もあわせて参照してください。

キヤノン製PictBridge対応プリンター

印刷する

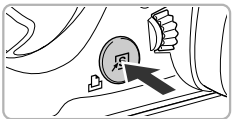
撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）を付属のインターフェースケーブル（p.2）でつないで、かんたんに印刷できます。

1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きい方のプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる

4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- ▶［ SET］が表示されます。

5 印刷する画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選びます。

6 印刷する

- 凸ボタンを押します。
- ▶印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5～6の操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

- 印刷方法については、「はじめよう！おうちプリント」（p.2）を参照してください。
- キヤノン製PictBridge対応プリンター（別売）については、p.41を参照してください。
- 一部のキヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）では、インデックス印刷（p.145）ができないことがあります。

かんたん予約（DPOF）

撮影直後や画像の再生中に⎙ボタンを押すだけで、印刷予約（DPOF）ができます。
なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

1 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して、画像を選びます。

2 ⎙ボタンを押す（動画は除く）

3 印刷予約をする

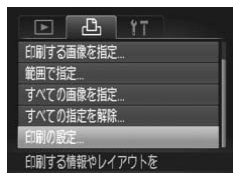
- ▲か▼を押して印刷枚数を指定し、◀か▶を押すか◎を回して［予約する］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- 印刷予約を解除するときは、もう一度手順1～2の操作を行い、◀か▶を押すか◎を回して［解除する］を選び、(FUNC/SET)を押します。

プリンターにつないでいるときは、かんたん予約できません。

印刷指定（DPOF）

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷（p.148）や写真店への印刷注文をすることができます（最大998画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

印刷内容の設定

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。

1 ［印刷の設定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［凸］タブの［印刷の設定］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選び、◀か▶を押して設定します。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

印刷タイプ	スタンダード	1枚の用紙に1枚の画像を印刷
	インデックス	1枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—

- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、［❗］が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- ［インデックス］に設定したときは、［日付］と［画像番号］の両方を［入］にはできません。
- 日付の並びは、［🔧］タブの［日付/時刻］の設定で印刷されます（p.20）。
- 動画は指定できません。

1枚ずつ枚数を指定する

1 ［印刷する画像を指定］を選ぶ

- MENUボタンを押して、［🖨］タブの［印刷する画像を指定］を選び、(FUNC/SET)を押します。

2 画像を選ぶ

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- ［インデックス］では、指定されると［✓］が表示され、もう一度(FUNC/SET)を押すと、解除されて［✓］が消えます。

3 枚数を設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して、枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2〜3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- ［インデックス］では枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- MENUボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

範囲で指定する

1 ［範囲で指定］を選ぶ

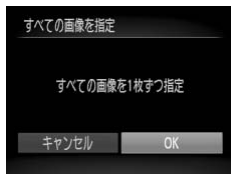
- p.146の手順1の操作で［範囲で指定］を選び、(FUNC./SET)を押します。
- p.128の手順2～3の操作で指定します。

2 印刷指定する

- ▲か▼を押して［画像指定］を選び、(FUNC./SET)を押します。

すべての画像を指定する

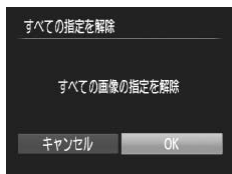
1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.146の手順1の操作で［すべての画像を指定］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 印刷指定する

- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC./SET)を押します。

すべての指定を解除する

1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.146の手順1の操作で［すべての指定を解除］を選び、(FUNC./SET)を押します。

2 指定を解除する

- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押します。

予約した画像を印刷する

予約した画像（p.144～147）は、カメラとPictBridge対応プリンターをつなぐと印刷できます。

印刷される枚数

1 カメラとプリンターをつなぐ

- p.142の手順1～4の操作を行います。

2 印刷する

- ▲か▼を押して［すぐに印刷］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▶ 印刷がはじまります。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

カメラの設定を自分好みに変えよう

カメラの各種設定を撮影スタイルにあわせて変えられます。
章の前半では、ふだん使う上で便利な機能について説明しています。
章の後半では、撮影機能や再生機能を目的にあわせて変える方法について説明しています。

カメラの設定を変える

メニューの［𝐘𝐓］タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます（p.49）。

音を変える

カメラの各種動作音を変えられます。

- ［音の選択］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して項目を選びます。
- ◀か▶を押して内容を選びます。

1	オリジナルの音が登録されています。 音は変えられません。
2	オリジナルの音が登録されています。 付属のソフトウェアを使って変えられます（p.2）。

機能の説明を表示しない

FUNC.メニュー（p.48）やメニュー（p.49）で項目を選ぶと、機能の説明が表示されます。この説明を表示しないようにすることができます。

- ［機能ガイド］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

起動画面を変える

電源を入れたときに表示される起動画面を変えられます。

- ［起動画面］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して内容を選びます。

(表示なし)	起動画面は表示されません。
1	オリジナルの画像が登録されています。 画像は変えられません。
2	オリジナルの画像が登録されています。 撮影した画像を登録したり、付属のソフトウェアを使って変えることができます。

撮影した画像を起動画面にする

▶ボタンを押して、再生モードにすると登録できます。

- ［起動画面］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して［2］を選び、(FUNC/SET)を押します。

- ◀か▶を押すか◎を回して画像を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して［OK］を選び、(FUNC/SET)を押すと登録されます。

起動画面を登録すると、以前の登録内容は消えます。

付属のソフトウェアで音や起動画面を登録する

付属のソフトウェアに用意されている専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することができます。また、CANON iMAGE GATEWAYからダウンロードした専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することもできます。詳しくは「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

画像番号のつけかたを変える

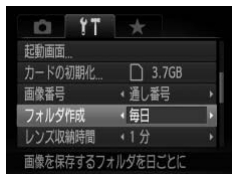
撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。

● ［画像番号］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

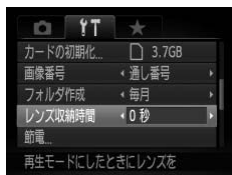
通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.23）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

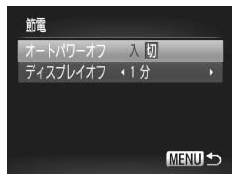
フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。

- ［フォルダ作成］を選び、◀か▶を押して［毎日］を選びます。
- 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

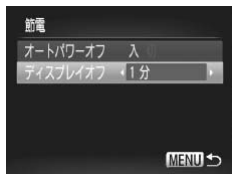
レンズ収納時間を変える

撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.28）。▶ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0秒］に設定します。

- ［レンズ収納時間］を選び、◀か▶を押して［0秒］を選びます。

節電機能を切る

節電機能（p.52）を［切］にできます。バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［入］をおすすめします。

- ［節電］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して［オートパワーオフ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。
- ［切］にすると節電機能は働きません。電源の切り忘れに注意してください。

画面が消えるまでの時間を変える

節電機能（p.52）が働いて、画面が自動的に消えるまでの時間を設定できます。なお、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

- ［節電］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して［ディスプレイオフ］を選び、◀か▶を押して時間を選びます。
- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は［1分］以下をおすすめします。

世界時計を使う

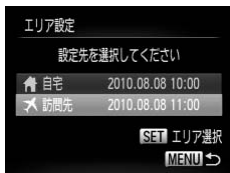
海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先（旅行先）のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付／時刻を設定しなおす必要がなく便利です。

1 自宅のエリアを設定する

- ［エリア設定］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- はじめて設定するときは、左の画面が表示されていることを確認し、(FUNC/SET)を押します。

- ◀か▶を押すか◎を回して自宅エリアを選びます。
- ▲か▼を押して［☀］を選ぶと、サマータイム（1時間プラスされます）を設定できます。
- (FUNC/SET)を押します。

2 訪問先のエリアを設定する

- ▲か▼を押すか◎を回して［✈訪問先］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ◀か▶を押すか◎を回して訪問先エリアを選びます。
- 手順1と同じように、サマータイムも設定できます。
- (FUNC/SET)を押します。

3 訪問先のエリアに切り換える

- ▲か▼を押すか◎を回して［✈］を選び、MENUボタンを押します。
- ▶ 撮影画面（p.177）に［✈］が表示されます。

［✈］の状態で日付／時刻を変える（p.20）と、［🏠自宅］の日時も自動的に変わります。

距離表示の単位を変える

ズームバー（p.25）や、MFインジケーター（p.89）の距離表示の単位をm/cmからft/in（フィート／インチ）に変えることができます。

- ［距離表示］を選び、◀か▶を押して［ft/in］を選びます。

撮影機能の設定を変える

モードダイヤルを**P**にして、メニューの［📷］タブで設定します（p.49）。

ここで説明する機能を**P**モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.180～183）。

フォーカス設定を切り換える

通常は、シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた方向の被写体へ常にピントを合わせますが、シャッターボタンを半押ししたときだけ、ピントを合わせるようにすることができます。

- ［コンティニュアスAF］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

入	シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
切	通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

AF補助光（ランプ）を切る

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［AF補助光］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

ストロボ発光のタイミングを変える

ストロボ発光とシャッターのタイミングを変えることができます。

- ［ストロボ制御］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して［シンクロ設定］を選び、◀か▶を押して目的の項目を選びます。

先幕	撮影開始直後にストロボが発光します。
後幕	撮影終了直前にストロボが発光します。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。

- ［ストロボ制御］を選び、(FUNC/SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して［赤目緩和ランプ］を選び、◀か▶を押して［切］を選びます。

撮影直後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。

- ［撮影の確認］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

2～10秒	設定した時間だけ画像を表示します。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

撮影直後の画面表示を変える

撮影直後の画像表示を変えることができます。

- ［レビュー情報］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（p.179）になります。
ピント確認	AFフレームの位置を拡大表示して、ピントを確認することができます。操作方法は、「ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）」（p.122）と同じです。

情報の表示内容を設定する

DISP.ボタンを押したときに画面に表示される情報や、切り換わる［表示先］を設定できます。

- ［情報表示設定］を選び、(FUNC./SET)を押します。
- ▲▼◀▶を押すか◎を回して項目を選び、(FUNC./SET)を押して、表示したい項目に［✓］をつけます。
- ▲▼◀▶を押すか◎を回して表示先（［1］、［2］、［1］、［2］）を選び、(FUNC./SET)を押すと、DISP.ボタンを押して切り換える［表示先］を設定できます。
  ［⊘］をつけた［表示先］は、DISP.ボタンを押したときに表示されません。また、設定中に表示している［表示先］には［⊘］をつけられません。
- ▶［✓］のある項目が表示されるようになります。

撮影情報	撮影情報（p.177）が表示されます。
グリッドライン	格子線が画面に表示されます。
3:2ガイド	上下に灰色の帯が表示されます。この部分は縦横比が3:2の用紙に印刷されません。
ヒストグラム	**P**、**Tv**、**Av**、**M**で、ヒストグラム（p.47）が表示されます。

シャッターボタンを半押しして情報表示設定画面から撮影画面に戻ると、設定内容は保存されません。

- 項目が灰色になっていても設定できますが、撮影モードによっては表示されないことがあります。
- ［グリッドライン］は画像に記録されません。
- ［W］では、［3:2ガイド］は表示されません。
- ［3:2 ガイド］の灰色の部分は、印刷されない領域を示しています。実際の画像は、灰色の部分も画像として記録されます。

手ブレ補正の設定を変える

- ［手ブレ補正］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

入	常時手ブレを補正します。画面上で補正効果が確認できるため、構図の確認やピント合わせがしやすくなります。動画撮影中は、歩きながら撮影するときなどの大きなブレも補正します（ダイナミックモード）。
撮影時*	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
流し撮り*	上下方向だけブレを補正します。横方向に動いているものをカメラで追いかけて撮影するときに適しています。

*動画を撮影するときは、［入］の設定に変わります。

- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[切] にすることをおすすめします。
- [流し撮り] は、カメラを横位置にして撮影してください。カメラが縦位置では補正されません。

動画を撮影するときは、ズームレバーを側に押して広角側にすると、補正効果が大きくなります。

ボタンによく使う機能を登録する

- [ショートカット登録] を選び、を押します。
- ▲▼◀▶を押すかを回して、登録する項目を選び、を押します。
- ボタンを押すと、登録した機能が呼び出されます。

- 初期状態に戻すときは、[ ] を選びます。
- アイコン右下の [ ] は、設定している撮影モードや設定している機能の状態では使えないことを示しています。
- [ ] では、ボタンを押すたびに白データの取り込みが行われ (p.77)、ホワイトバランスも [ ] に設定されます。
- [AFL] では、ボタンを押すたびにピント位置が調整されたあと固定され、画面に [AFL] が表示されます。
- [ ] では、ボタンを押すと画面とビューファインダーの表示が消えます。次のいずれかの操作で復帰します。
  - 電源ボタン以外のボタンを押す
  - カメラの縦・横の向きを変える
  - 液晶モニターを開閉する
  - ストロボを開閉する

よく使う撮影メニューを登録する（マイメニュー）

よく使う撮影メニューを、［★］タブのメニューとして5項目まで登録できます。［★］タブのメニューに登録すると、メニューを1つの画面で表示できるため、素早く設定を変えられます。

1 ［マイメニューの設定］を選ぶ

- ［★］タブの［マイメニューの設定］を選び、(FUNC SET)を押します。

2 登録する撮影メニューを選ぶ

- ▲か▼を押すか◎を回して［表示設定］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して登録したいメニュー（5つまで）を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶［✓］が表示されます。
- 登録を解除するときは、(FUNC SET)を押して［✓］を消します。
- MENUボタンを押します。

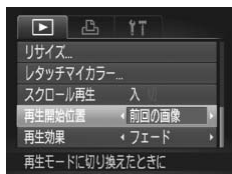
3 メニューの表示順を変える

- ▲か▼を押すか◎を回して［並べ替え］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して表示順を変えたいメニューを選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して表示順を変え、(FUNC SET)を押します。
- MENUボタンを押します。

- 手順2で、項目が灰色になっていても設定はできますが、撮影モードによっては使えないことがあります。
- ［優先表示］を選び、◀か▶を押して［する］を選ぶと、撮影モードでMENUボタンを押したときに、すぐにマイメニューを表示することができます。

再生機能の設定を変える

▶ボタンを押して、メニューの［▶］タブで設定します（p.49）。

再生したときに表示する画像を選ぶ

- ［再生開始位置］を選び、◀か▶を押して内容を選びます。

前回の画像	再生したときに、前回最後に再生した画像が表示されます。
最新の画像	再生したときに、撮影した最新画像が表示されます。

10

カメラを使うときに役立つ情報

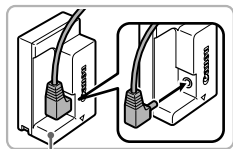
別売アクセサリー（p.39）の使いかたや、「故障かな？と思ったら」のほか、画面表示の一覧やカメラの機能一覧を掲載しています。

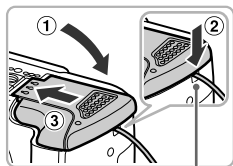
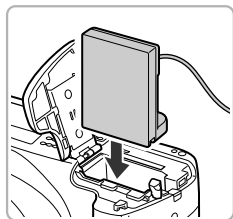
家庭用電源でカメラを使う

ACアダプターキットACK-DC50（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

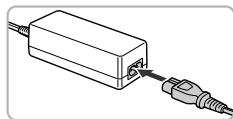
1 カメラの電源を切る

2 プラグをカプラーにつなぐ

- アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。

3 カプラーを入れる

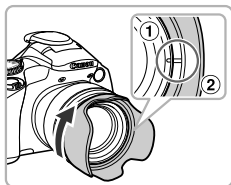
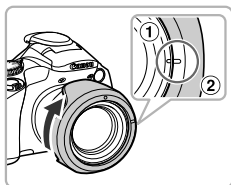
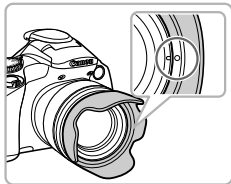
- p.17 の手順 2 の操作でふたを開き、カプラーを図の向きにして、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。

- ふたを① の方向にたおして押さえたまま閉じ（②）、③ の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

4 電源コードを取り付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

> カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。

レンズフード（別売）を使う

レンズフード LH-DC60（別売）を使うと、ストロボを使わずに広角側で逆光時に撮影するとき、画角外の光がレンズに入ることを防ぐことができます。

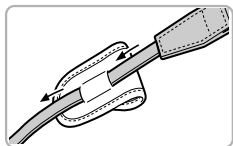
取り付ける

- カメラの取り付け部① とフードの内側の切り欠き② をあわせてから、ロックするまで矢印の方向に回します。
- 取り外すときは、反対方向に回します。

- フードを使わないときは、図の向きにして、カメラの取り付け部① とフードの外側の切り欠き② をあわせてから、ロックするまで矢印の方向に回して取り付けます。

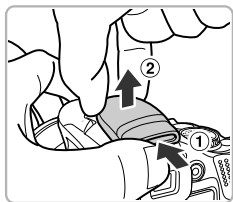
> フードを取り付けた状態で内蔵ストロボを使うと、ストロボ光がケラレて、画像の一部が暗くなることがあります。

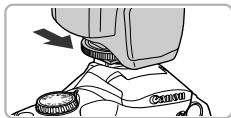
外付けストロボ（別売）を使う

EXシリーズスピードライト（別売）を使うと、より高度なストロボ撮影ができます。

- ホワイトバランスは［⚡］に設定することをおすすめします。
- お使いになるスピードライトシリーズの使用説明書も、あわせてご覧ください。

- EXシリーズスピードライトを取り付けているときは、内蔵ストロボを設定できません。
- スピードライト 270EX、430EX II、580EX IIの機能の一部は、このカメラでは使えません。
- EX シリーズスピードライト以外のキヤノン製ストロボでは「発光しない」、「フル発光する」など正しく発光しないことがあります。なお、マニュアル発光機能があるストロボでは、マニュアルモードで撮影できますが、赤目自動補正はできません。
- 他社のストロボ（特に高圧タイプのストロボ）やストロボ用付属品を使うと、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがあります。

1 アクセサリーシューキャップケースをストラップに取り付ける

- ストラップをカメラから外します。
- ケースの裏側にストラップを通します。
- ストラップをカメラに取り付けます（p.13）。

2 アクセサリーシューキャップを取り外す

- キャップを①の方向に押しながら、②のように持ち上げて取り外します。
- 取り外したキャップはなくさないよう、ストラップに取り付けられたケースに入れます。

3 アクセサリーシューにストロボを取り付ける

4 ストロボ、カメラの順番で電源を入れる

- ▶［⚡］（赤色）が表示されます。
- ▶ストロボの充電が完了すると、ストロボのパイロットランプが点灯します。

5 ストロボ制御画面を表示する

外部ストロボ設定

発光モード	オート
調光補正	±0
シンクロ設定	先幕
スローシンクロ	切
ワイヤレス機能	切

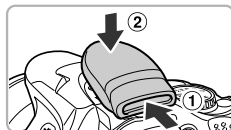
MENU ↩

- ● MENUボタンを押して、［📷］タブの［ストロボ制御］を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ストロボ側で設定されている内容が表示されます。

6 設定する

- ● ▲か▼を押すか◎を回して項目を選び、◀か▶を押して設定します。
- ● 設定できる項目は、ストロボによって異なります（p.168）。
- ● **P**、**Tv**、**Av**、**M** 以外の撮影モードでは自動調光で発光するので、設定は変えられません。

⚡ボタンを1秒以上押すことで設定画面を表示することもできます。

アクセサリーシューキャップを取り付ける

外付けストロボを使わないときは、キャップを取り付けてください。

外付けストロボ（別売）を使うときの設定について

スピードライト 270EX、430EX II、580EX IIを使うとき

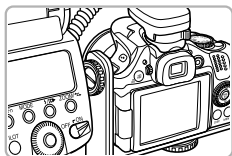
- ストロボが同調するシャッタースピードの上限は1/250秒です。
- ［発光モード］が［オート］のときは自動調光で発光し、調光補正量とセーフティ FEが設定できます。なお、カメラ側で調光補正量を設定するときは、事前にストロボ側で調光補正量を［+0］に設定しておきます。
- ［発光モード］が［マニュアル］のときは、カメラ側またはストロボ側*で発光量が設定できます。
  *スピードライト 270EXはストロボ側で設定できません。
- 撮影モードが**M**のときは、ストロボがE-TTL自動調光モードに設定されていても、カメラ側でストロボの発光量を設定すると、ストロボ側の表示は［E-TTL］のままですが、設定した発光量で発光します。また、ストロボ側で設定した調光補正量も反映されます。
- カメラで設定できる項目は次のとおりです。

項目	選択項目	撮影モード			
		P	**Tv**	**Av**	**M**
発光モード	オート / マニュアル	○	○	○	*1
調光補正	−3～+3	○	○	○	—
発光量	1/128*2～1/1（1/3段ステップ）	○	○	○	○
シンクロ設定	先幕 / 後幕 / ハイスピード	○	○	○	○
スローシンクロ	入 / 切	○	*3	○	*3
ワイヤレス機能*4	入 / 切	○	○	○	○
赤目自動補正	入 / 切	○	○	○	○
赤目緩和ランプ	入 / 切	○	○	○	○
セーフティ FE	入 / 切	○	○	○	*5
ストロボ設定初期化*6	すべての設定を初期状態に戻します	○	○	○	○

*1［マニュアル］固定。
*2 スピードライト 270EX、430EX IIでは1/64。
*3［入］固定。
*4 入／切以外はストロボ側で設定。スピードライト 270EX、430EX IIでは設定不可。
［入］のとき［シンクロ設定］の［後幕］は設定不可（カメラ側で［後幕］に設定していても、［先幕］になります）。
*5［切］固定。
*6［スローシンクロ］［セーフティ FE］［赤目自動補正］［赤目緩和ランプ］は、カメラの［¥¥］メニューの［初期設定］でも初期状態に戻ります（p.53）。

- 発光モード、調光補正、発光量、シンクロ設定、ワイヤレス機能は、カメラの電源を入れたときに、ストロボ側の設定が反映されます。
- 次の機能も使えます。
  - 自動調光（E-TTLモードにしてください。）
  - FEロック機能（［発光モード］が［オート］時）
  - オートズーム機能（スピードライト270EXには搭載されていません。）

- 連続撮影時、ストロボがクイック発光（パイロットランプが緑色点灯）の状態でも撮影できます。なお、フル発光（パイロットランプが赤色点灯）時に比べ、ストロボの発光量が少なくなることがあります（580EX IIのみ）。
- ストロボ側でマルチ発光に設定されているときは、ストロボの設定メニューは選べません（580EX IIのみ）。
- スピードライト 380EX、420EX、430EX、550EX、580EXも同様に使えます。

スピードライト 430EX II、580EX IIをお使いのとき

別売のスピードライトブラケット SB-E2を使うと縦位置撮影時に被写体の横に不自然な影が出るのを防ぐことができます。ただし、液晶モニターを開くと、角度によってはスピードライトブラケットに当たることがありますので、液晶モニターを閉じた状態でお使いください。

その他のキヤノン製ストロボを使うとき

スピードライトEXシリーズ以外のキヤノン製ストロボを使うときは、フル発光するので、ストロボの使用説明書に記載されたガイドナンバーを参考にして、被写体との距離から、絞り数値とISO感度を最適値に設定してください。

Eye-Fiカードを使う

Eye-Fiカードを使うときは、その国や地域で使用が認められているか、必ず事前にご確認ください（p.16）。

セットアップしたEye-Fi カードをカメラに入れると、撮影した画像をワイヤレスでパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードしたりできます。
画像の転送はEye-Fi カードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問いあわせください。

Eye-Fi カードの使用中は、次のことに注意してください。

- ［Eye-Fi通信］を［しない］に設定（p.171）しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳しくはカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態によっては、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断したりすることがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- バッテリーの消耗が早くなります。
- カメラの動作が遅くなります。［Eye-Fi 通信］を［しない］に設定すると解決することがあります。

Eye-Fi カードをカメラに入れると、撮影画面（情報表示時）や再生画面（簡易情報表示時）で通信状態を確認できます。

（灰色点灯）	未接続
（白点滅）	接続中
（白点灯）	転送待機
（アニメーション）	転送中
	中断
	Eye-Fi カード情報取得エラー（電源を入れなおしてください。繰り返し表示されるときは、カードの異常が考えられます。）

転送された画像には、［ ］が表示されます。

画像の転送中は、節電機能が働きません（p.52）。

通信情報を確認する

接続先SSID や通信状態を確認できます。

[通信情報一覧] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[YT] タブの [Eye-Fi 設定] を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して [通信情報一覧] を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▶ 通信情報一覧が表示されます。

Eye-Fi 通信をしない

Eye-Fi 通信をしない設定にできます。

[Eye-Fi 通信] で [しない] を選ぶ

- MENUボタンを押して、[YT] タブの [Eye-Fi 設定] を選び、(FUNC SET)を押します。
- ▲か▼を押すか◎を回して[Eye-Fi通信] を選び、◀か▶を押して [しない] を選びます。

? [Eye-Fi設定] が表示されない?

[Eye-Fi設定] は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。

ライトプロテクトスイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、[Eye-Fi通信] を [しない] に設定することはできません。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- 指定されたバッテリーで、残量があることを確認してください（p.15）。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（p.17）。
- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.17）。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。端子カバーを付けて、ポケットなどでバッテリーを温めてからお使いください。

レンズが出たままで収納されない

- 電源を入れたまま、カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.17）。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.125）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.22）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.24）。

画面が表示されない（p.27）

暗い場所での画面表示がおかしい（p.47）

撮影中の画面表示がおかしい

次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。

- カメラに強い光があたると、表示が黒くなることがあります。
- 蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影すると、画面がちらつくことがあります。
- 明るい光源を撮影すると、画面に赤紫色の帯が表示されることがあります。

シャッターボタンを押したら、画面に［⚡］が点滅表示されて撮影できない（p.27）

シャッターボタンを半押ししたときに、［ ］が表示される（p.27）

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.159）。
- ストロボを上げて、［⚡］にしてください（p.72）。
- ISO感度を高くしてください（p.76）。
- 三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.159）。

画像がボケて撮影されている
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.24）。
- 撮影距離範囲内に被写体を収めて撮影してください（p.187）。
- ［AF補助光］を［入］にしてください（p.156）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.82、87）。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない
- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる
- ストロボを上げて、［⚡］にしてください（p.72）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.73）。
- i-コントラストで補正してください（p.98、139）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.92、93）。

被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボを下げて、［⊛］にしてください（p.26）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.73）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.92、93）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になった（p.27）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.72）。
- 調光補正量や発光量で明るさを補正してください（p.100、101）。
- ISO感度を高くしてください（p.76）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）
- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.72）。
- ストロボを下げて、［⊛］にしてください（p.26）。
- 調光補正量や発光量で明るさを補正してしてください（p.100、101）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る
- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる
- ISO感度を低くして撮影してください（p.76）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.62）。

目が赤く写る（p.98）
- ［赤目緩和ランプ］を［入］に設定してください（p.157）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）（p.44）が点灯して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.54）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって変わります。「撮影機能／FUNC.メニュー 一覧」、「撮影タブメニュー 一覧」（p.180～183）で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が撮影されています（p.23、31）。

画面にバッファー警告（p.177）がいっぱいまで表示され、撮影が自動的に終わった

カメラの内部メモリーが少なくなりました。次の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.54）。
- 画質を変える（p.110）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（p.111）。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアガイド」（p.2）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで物理フォーマットしたカードを使ってください（p.54）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、次の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- ▶ボタンを押して再生モードにしたあと、MENUボタンを押したまま、▲と(FUNC/SET)を同時に押します。表示された画面で◀か▶を押して［B］を選んで(FUNC/SET)を押します。

Eye-Fiカード

画像が転送できない（p.170）

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.17）。

カードがロックされています

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード、Eye-Fiカードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.16、17）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.17）。

カードが異常です（p.54）

- 初期化したカードを正しい向きで入れても同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください（p.17）。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影（p.25、30、57、71、107）や編集（p.136～140）はできません。画像を消して（p.29、130）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.17）。

バッテリーを交換してください（p.15）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.127）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／再生できません（AVI）／RAW

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／連想再生できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／登録できない画像です／処理できません／指定できない画像です

- 非対応の画像は、拡大（p.123）、連想再生（p.123）、お気に入り設定（p.132）、回転（p.135）、編集（p.136～140）、起動画面への登録（p.151）、カテゴリー設定（p.133）、印刷指定（p.144、145）はできません。
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、拡大、連想再生、お気に入り設定、回転、編集、起動画面への登録、カテゴリー設定、印刷指定はできないことがあります。
- 動画は、拡大（p.123）、連想再生（p.123）、編集（p.136 ～ 140）、印刷指定（p.144、145）、起動画面への登録（p.151）はできません。

指定範囲が正しくありません

- 画像を範囲指定（p.128、131、134、145）するとき、始点に終点より遅い番号の画像、または終点に始点より早い番号の画像を指定しようとしました。

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします（p.146）。
- 印刷指定を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します（p.146）。
- 保護（p.127）、消去（p.130）、お気に入り（p.132）、マイカテゴリー（p.133）、印刷指定（DPOF）（p.145）で、501枚以上の画像を指定しようとしました。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

ファイル名が作成できません

- カメラが作成しようとしたフォルダや画像と同じファイル名があるとき、画像番号が最大値になっているときは、フォルダや画像が作成できません。[ｆｔ] メニューで[画像番号]を[オートリセット]に変えるか（p.152）、カードを初期化します（p.23）。

レンズエラーを検知しました

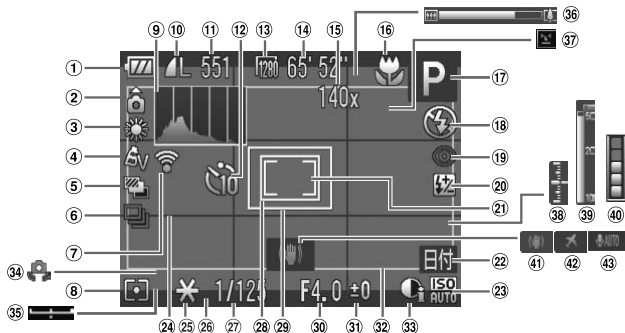
- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カメラがエラーを検知しました（エラー番号）

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号（Exx）を控えて、別紙の修理受付センターへご相談ください。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）

ビューファインダーにも同じ情報が表示されます。

① バッテリー残量表示（p.15）
② カメラ位置*
③ ホワイトバランス（p.77）
④ マイカラー（p.79）
⑤ AEB撮影（p.94）/ フォーカスブラケット撮影（p.90）
⑥ ドライブモード（p.78）
⑦ Eye-Fi通信状態（p.170）
⑧ 測光方式（p.92）
⑨ ヒストグラム（p.47）
⑩ 静止画の圧縮率（p.74）、記録画素数（p.74）
⑪ 静止画：撮影可能枚数（p.75）
⑫ セルフタイマー（p.61、80、81）
⑬ 動画の記録画素数（p.110）
⑭ 動画：撮影可能時間（p.111）
⑮ デジタルズーム倍率（p.58）、デジタルテレコンバーター（p.59）
⑯ フォーカスゾーン（p.73、89）／AFロック（p.87）
⑰ 撮影モード（p.180）、シーンアイコン（p.178）
⑱ ストロボモード（p.26、72、99）
⑲ 赤目自動補正（p.98）
⑳ ストロボ調光補正/発光量（p.100、101）
㉑ スポット測光枠（p.92）
㉒ 日付写し込み（p.60）
㉓ ISO感度（p.76）
㉔ グリッドライン（p.158）
㉕ AEロック（p.93）、FEロック（p.93）
㉖ 3:2ガイド（p.159）
㉗ シャッタースピード（p.95、97）
㉘ AFフレーム（p.84）
㉙ ボタンを押す前の表示範囲の目安（p.91）
㉚ 絞り数値（p.96、97）
㉛ 露出補正量（p.73）
㉜ 動画撮影領域（p.26）／静止画撮影領域（p.111）
㉝ i-コントラスト（p.98）
㉞ 手ブレ警告（p.27）
㉟ 露出シフトバー（p.112）
㊱ ズームバー（p.25）
㊲ 目つむり検出（p.101）
㊳ 露出レベル（p.97）
㊴ MFインジケーター（p.89）
㊵ バッファー警告
㊶ 手ブレ補正（p.159）
㊷ エリア設定（p.154）
㊸ 動画音声（p.113）

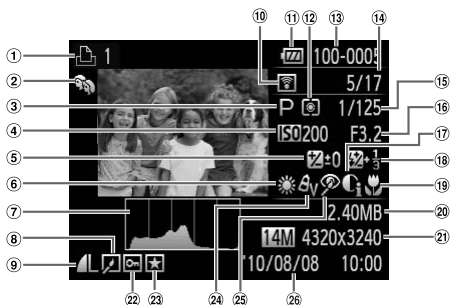
＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

シーンのアイコン

AUTO モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

被写体＼背景		人			人以外の被写体／風景	近くの被写体	アイコンの背景色
			動いているとき	顔の一部が暗いとき			
明るい							灰色
	逆光			ー			
青空を含む							水色
	逆光			ー			
夕景		ー				ー	オレンジ色
スポットライト							紺色
暗い							
	三脚使用時	＊	ー		＊	ー	

＊撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

再生時（詳細情報表示）

① 印刷予約（p.144、145）
② マイカテゴリー（p.133）
③ 撮影モード（p.180）
④ ISO感度（p.76）、倍速（動画）（p.109）
⑤ 露出補正量（p.73）、露出シフト量（p.112）
⑥ ホワイトバランス（p.77）
⑦ ヒストグラム（p.47）
⑧ 画像編集（p.136～140）
⑨ 圧縮率（画質）（p.74）／記録画素数（p.74）、MOV（動画）
⑩ Eye-Fi転送済み画像（p.170）
⑪ バッテリー残量表示（p.15）
⑫ 測光方式（p.92）
⑬ フォルダ番号－画像番号（p.152）
⑭ 再生画像番号／総画像数
⑮ シャッタースピード（p.95、97）
⑯ 絞り数値（p.96、97）、画質（動画）（p.110）
⑰ i-コントラスト（p.98、139）
⑱ ストロボ発光（p.72、99）、ストロボ調光補正量（p.100）
⑲ フォーカスゾーン（p.73、89）
⑳ ファイルサイズ（p.75、111）
㉑ 静止画：記録画素数（p.74）
動画：撮影時間（p.111）
㉒ 保護（p.127）
㉓ お気に入り（p.132）
㉔ マイカラー（p.79、138）
㉕ 赤目補正（p.98、140）
㉖ 撮影日時（p.20）

撮影機能／FUNC.メニュー 一覧

機能		C2	C1	M	Av	Tv	P	AUTO
ストロボ（p.26、72、99）＊1	⚡A	＊2	＊2	－	－	－	○	○
	⚡	＊2	＊2	○	○	○	○	－
	⚡★	＊2	＊2	－	○	－	○	＊3
	⊛	＊2	＊2	－	－	－	－	－
フレーミングアシスト（p.91）		＊2	＊2	○	○	○	○	○
AFフレームの位置・大きさの変更（p.85）		＊2	＊2	○	○	○	○	－
顔セレクト（p.88）		＊2	＊2	○	○	○	○	○
露出補正（p.73）		＊2	＊2	－	○	○	○	－
AEロック / FEロック /プログラムシフト（p.93）		＊2	＊2	－	○	○	○	－
AEロック /露出シフト（p.112）		＊2	＊2	＊6	＊6	＊6	＊6	－
フォーカスゾーン（p.73、89）	🌷	＊2	＊2	○	○	○	○	－
	▲	＊2	＊2	○	○	○	○	○
	MF	＊2	＊2	○	○	○	○	－
AFロック（S ボタン登録時）（p.160）		＊2	＊2	○	○	○	○	－
ISO感度（p.76）	ISO AUTO	＊2	＊2	－	○	○	○	○
	ISO 80 ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600	＊2	＊2	○	○	○	○	－
セルフタイマー（p.61、80、81）	OFF	＊2	＊2	○	○	○	○	○
	2 10 C	＊2	＊2	○	○	○	○	○
FUNC.メニュー 一覧								
ホワイトバランス（p.77）	AWB	＊2	＊2	○	○	○	○	○
	☀ ☁ 💡 H L ⚡ 🐟	＊2	＊2	○	○	○	○	－
マイカラー（p.79）	OFF	＊2	＊2	○	○	○	○	○
	V N Se BW P L D B G R C	＊2	＊2	○	○	○	○	－
ブラケット（p.90、94）	OFF	＊2	＊2	○	○	○	○	○
	AEB	＊2	＊2	－	○	○	○	－
	F	＊2	＊2	○	○	○	○	－
ドライブモード（p.78）	□	＊2	＊2	○	○	○	○	○
	連続	＊2	＊2	○	○	○	○	－
	AF連続	＊2	＊2	○	○	○	○	－
ストロボ調光補正（p.100）	-2～+2	＊2	＊2	－	○	○	○	－
発光量設定（p.101）		＊2	＊2	○	○	○	－	－
測光方式（p.92）	⦿	＊2	＊2	○	○	○	○	○
	[ ] [•]	＊2	＊2	○	○	○	○	－
記録画素数（静止画）／圧縮率（p.74）		＊2	＊2	○	○	○	○	○
画質（動画）（p.110）	1280 640 320	＊2	＊2	○	○	○	○	○

＊1 ストロボ収納時は［⊛］固定、その他はストロボを上げたときに選択可　＊2 設定できる内容は登録されている撮影モードに従う　＊3 選択不可ただし状況に応じて［⚡★］　＊4 選択不可ただしストロボ発光時は［⚡★］　＊5 動画撮影中は不可　＊6 動画撮影中のみ可能　＊7 撮影枚数およびタイマー時間0秒設定不可　＊8 白データの取り込み不可

			SCN																
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－
○	○	－	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－
－	＊4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－
－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	＊5	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	－	－	○	－	○
○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	－	＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	＊6	○	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	○	○	○
○	○	－	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	－	－	－	－	○	○	○	＊7	＊7	＊7	○	○	○	○	＊7	＊7	＊7	＊7
FUNC.メニュー 一覧																			
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	＊8	＊9	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－
○	○	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－
○	○	○	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊10	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
○	○	○	○	○	○	＊11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊12	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊13	○

＊9［ ］は不可　＊10［ ］　＊11 記録画素数は［ M ］と表示され、1600×1200画素に固定、圧縮率（画質）は選択可能　＊12［ W ］は不可　＊13［ 320 ］は不可

○選択可能または自動設定　－選択不可

メニュー 一覧

撮影タブメニュー 一覧

機能		撮影モード	C2	C1	M	Av	Tv	P	AUTO
AFフレーム（p.84）	アクティブ		＊1	＊1	○	○	○	○	−
	中央		＊1	＊1	−	−	−	−	−
	顔優先		＊1	＊1	○	○	○	○	＊2
デジタルズーム（p.58）	入		＊1	＊1	○	○	○	○	○
	切		＊1	＊1	○	○	○	○	○
	テレコン1.7x / テレコン2.1x		＊1	＊1	○	○	○	○	○
ピント位置拡大（p.86）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	○
サーボAF（p.86）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	＊3
コンティニュアスAF（p.156）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	＊4
AF補助光（p.156）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	○
MF拡大表示（p.89）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	−
セーフティ MF（p.89）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	−
ストロボ制御（p.98、100、101、157）	発光モード	オート	＊1	＊1	−	○	○	○	○
		マニュアル	＊1	＊1	○	○	○	−	−
	調光補正	−2~＋2	＊1	＊1	−	○	○	○	−
	発光量	小 / 中 / 大	＊1	＊1	○	○	○	−	−
	シンクロ設定	先幕 / 後幕	＊1	＊1	○	○	○	○	−
	赤目自動補正	入 / 切	＊1	＊1	○	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ	入 / 切	＊1	＊1	○	○	○	○	○
	セーフティ FE	入 / 切	＊1	＊1	−	○	○	○	＊4
i-コントラスト（p.98）	自動 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	＊5
スポット測光枠（p.92）	中央固定 / AF枠連動		＊1	＊1	○	○	○	○	−
セーフティシフト（p.96）	入 / 切		＊1	＊1	−	○	○	−	−
動画音声（p.113）	マイク	オート / マニュアル	＊1	＊1	○	○	○	○	○
	録音レベル		＊1	＊1	○	○	○	○	○
	ウィンドカット	入 / 切	＊1	＊1	○	○	○	○	○
撮影の確認（p.157）	切 / 2〜10秒 / ホールド		＊1	＊1	○	○	○	○	○
レビュー情報（p.158）	非表示		＊1	＊1	○	○	○	○	○
	詳細表示 / ピント確認		＊1	＊1	○	○	○	○	○
目つむり検出（p.101）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	○
情報表示設定（p.158）	撮影情報		＊1	＊1	○	○	○	○	○
	グリッドライン		＊1	＊1	○	○	○	○	○
	3:2ガイド		＊1	＊1	○	○	○	○	○
	ヒストグラム		＊1	＊1	○	○	○	○	＊6
鏡像表示（p.19）	入 / 切		＊1	＊1	○	○	○	○	○
手ブレ補正（p.159）	切 / 入		＊1	＊1	○	○	○	○	＊4
	撮影時 / 流し撮り		＊1	＊1	○	○	○	○	−
表示範囲（p.91）	大 / 中 / 小		＊1	＊1	○	○	○	○	○
日付写し込み（p.60）	切 / 日付のみ / 日付+時刻		＊1	＊1	○	○	○	○	○
ショートカット登録（p.160）			＊1	＊1	○	○	○	○	○
カスタム登録（p.102）			○	○	○	○	○	○	−

＊1 設定できる内容は登録されている撮影モードに従う　＊2 顔が検出されないときは9点測距　＊3 人の動きを検出したときは［入］　＊4［入］固定　＊5［自動］固定　＊6 選択のみ可能

			SCN																
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	—	—	—	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	—	○
○	○	—	○	○	○	*2	○	○	○	—	—	○	○	○	—	—	○	—	○
○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	—	○	○	○	○	—	○	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	—	○	○	—	—	—	○	○	○	○	—	—	—	—
○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—
○	○	*4	—	—	—	○	○	○	○	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—
○	○	*4	*4	*4	*4	—	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	*4	*4	*4
○	○	—	*4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
○	○	—	—	—	—	○	○	○	○	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—
○	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	—	○	○	○	○	○	○	—	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—
○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
*4	*4	—	*4	*4	*4	*4	*4	*4	*4	*4	*4	*4	*4	*4	—	*4	—	—	—
—	—	—	—	—	—	*5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*6	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*6	*6	*6	*6
*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6	*6
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

○選択可能または自動設定　ー選択不可

設定タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
消音	する / しない*	p.50
音量	各種操作音を5段階に設定	p.50
音の選択	各種動作音の選択	p.150
機能ガイド	入* / 切	p.150
液晶の明るさ	±2の範囲で設定	p.51
起動画面	起動画面の選択と登録	p.151
カードの初期化	記録内容を初期化して消去	p.23、54
画像番号	通し番号* / オートリセット	p.152
フォルダ作成	毎月* / 毎日	p.153
レンズ収納時間	1分* / 0秒	p.153
節電	オートパワーオフ：入* / 切 ディスプレイオフ：10～30秒 / 1*～3分	p.52、153、154
エリア設定	自宅* / 訪問先	p.154
日付 / 時刻	日付 / 時刻の設定	p.21
距離表示	m/cm* / ft/in	p.155
ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.125
Eye-Fi設定	Eye-Fi通信の設定（Eye-Fiカード挿入時のみ表示）	p.170
言語	表示言語を選択	p.22
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態に戻す	p.53

* 初期設定

★ マイメニュータブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
マイメニューの設定	マイメニューに登録する項目を設定	p.161

▶ 再生タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
連想再生	連想再生の開始	p.123
スライドショー	画像の自動再生	p.121
消去	画像の消去（画像指定／範囲で指定／全画像）	p.130
保護	画像の保護（画像指定／範囲で指定／全画像）	p.127
回転	画像の縦横回転	p.135
お気に入り	お気に入りの登録／解除	p.132
マイカテゴリー	画像の分類（画像指定／範囲で指定）	p.133
i-コントラスト	静止画の暗い部分やコントラストを補正	p.139
赤目補正	静止画の赤目部分を補正	p.140
トリミング	静止画の切り抜き	p.137
リサイズ	静止画を小さくして保存	p.136
レタッチマイカラー	静止画の色調を変える	p.138
スクロール再生	入* / 切	p.118
再生開始位置	前回の画像* / 最新の画像	p.162
再生効果	フェード* / スライド1 / スライド2 / 切	p.124

＊初期設定

印刷タブメニュー 一覧

項目	内容	参照ページ
印刷	印刷画面を表示（プリンター接続時）	—
印刷する画像を指定	印刷する画像を1枚ずつ指定	p.146
範囲で指定	印刷する画像を、始点／終点の範囲で指定	p.147
すべての画像を指定	すべての画像を印刷する画像に指定	p.147
すべての指定を解除	すべての印刷指定を解除	p.147
印刷の設定	印刷のスタイルを設定	p.145

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭きとってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の修理受付センターにご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

主な仕様

撮像素子
　カメラ部有効画素数..............約1410万画素
撮影レンズ
　焦点距離.......................... 35 倍ズーム : 4.3 (W) – 150.5 (T) mm (35mm フィルム換算 : 24 (W) – 840 (T) mm)
　撮影距離.......................... 0 cm – ∞ (W)、1.4 m – ∞ (T)
　・マクロ時は0 –50 cm (W)
　防振機構（IS）........................レンズシフト方式
映像エンジン DIGIC4
液晶ビューファインダー...........電子ビューファインダー（有効画素数：約 20.2 万ドット（6.7万×3））
　・輝度調節（5段階）、視度調節付き
液晶モニター
　形式............................... TFT カラー（広視野角タイプ）
　画面サイズ....................... 2.7型
　有効画素数 ....約 23.0 万ドット
　アスペクト比.................... 4:3
　機能.......................................輝度調節（5段階）、LCDブースター付き
　バリアングルタイプ（開閉角度約175度、回転角度約270度）
フォーカス
　制御方式................................ オートフォーカス：シングル (オート時はコンティニュアス) / コンティニュアス 、サーボAF（サーボAE）
　マニュアルフォーカス
　AFフレーム............................顔優先AF / 中央 / アクティブフレーム
測光方式.....................................評価 / 中央部重点平均 / スポット
露出補正（静止画）/
露出シフト（動画）....................±2段（1/3段ステップ）
ISO感度......................................オート、ISO 80/100/200/400/800/1600/
（標準出力感度・推奨露光指数）
ホワイトバランス .... オート / 太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H / ストロボ / マニュアル
シャッタースピード .... 1 – 1/3200秒
　15 – 1/3200秒（すべての撮影モードを合わせたシャッタースピード範囲）
絞り
　方式...虹彩絞り
　F値 .... F2.7 – F8.0 (W)、F5.8– F8.0 (T)
ストロボ
　発光モード ....オート / 常時発光 / スローシンクロ / 発光禁止
　アクセサリーシュー..............あり
　調光範囲.......................... 50 cm – 5.8 m (W)、1.4 m – 2.8 m (T)
撮影モード .... C2、C1、M、Av、Tv、P、オート、ポートレート、風景、スポーツ、SCN*1、動画*2*3

＊1 オートシャッター＊4、ローライト、極彩色、オールドポスター、ワンポイントカラー、スイッチカラー、魚眼風、ジオラマ風、ビーチ、新緑／紅葉、スノー、打上げ花火、スティッチアシスト
＊2 こだわりオート可能
＊3 スタンダード、ジオラマ風、ワンポイントカラー、スイッチカラー
＊4 スマイル、ウインクセルフタイマー、顔セルフタイマー

デジタルズーム……静止画 / 動画：約4.0倍（光学×デジタル：最大約140倍）、セーフティズーム、デジタルテレコンバーター

連続撮影
　モード……通常 / AF / LV
　速度（通常時）……約1.3枚/秒（撮影モード「P」時）
　約3.6枚/秒（撮影モード「ローライト」時）

撮影枚数（目安）（CIPA準拠）……約400枚（ビューファインダー）
約370枚（液晶モニター）

記録媒体……SDメモリーカード / SDHCメモリーカード / SDXCメモリーカード / MMCカード / MMCplusカード / HC MMCplusカード

ファイルフォーマット……DCF 準拠、DPOF 対応（Version 1.1）

データタイプ
　静止画……Exif 2.3（JPEG）
　動画……MOV（画像：H.264、音声：リニアPCM（ステレオ））

記録画素数
　静止画……ラージ：4320 x 3240 / ミドル1：3072 x 2304 / ミドル2：1600 x 1200 / スモール：640 x 480 / ワイド：3744 x 2104
　・ローライト時は1600×1200固定
　動画……こだわりオート、スタンダード、ワンポイントカラー、スイッチカラー：1280 x 720（30 fps＊）・640 x 480（30 fps＊）・320 x 240（30 fps＊）
　ジオラマ風：1280 x 720（撮影時は6 fps / 3 fps / 1.5 fps、再生時は30 fps＊）/ 640 x 480（撮影時は6 fps / 3 fps / 1.5 fps、再生時は30 fps＊）
　＊実際のフレームレートは29.97 fps

インターフェース……Hi-Speed USB
HDMI出力
アナログ音声出力（ステレオ）
アナログ映像出力（NTSC/PAL）

ダイレクトプリント規格……PictBridge

電源……バッテリーパックNB-7L
ACアダプターキットACK-DC50

大きさ……122.9 x 92.4 x 107.7 mm
・CIPA 準拠

質量（CIPA準拠）……約601 g（電池・メモリーカード含む）
約552 g（本体のみ）

バッテリーパックNB-7L

形式……リチウムイオン充電池
公称電圧……DC7.4 V
公称容量……1050 mAh
充放電回数……約300回
使用温度……0 – 40℃
大きさ……32.5 x 46.4 x 17.7 mm
質量……約47 g

バッテリーチャージャー CB-2LZ

定格入力……AC100 – 240 V（50 / 60 Hz）
14 VA（100 V）– 19.2 VA （240 V）、0.14 A （100 V）– 0.08 A（240 V）
定格出力……DC8.4 V、0.7 A
充電時間……約2時間20分
使用温度……0 – 40℃
大きさ……92.4 x 27.0 x 62.0 mm
質量……約92 g

レンズフード LH-DC60（別売）

最大径×長さ……69.6×27.0mm
質量……約10 g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および、外観の一部を予告なく変更することがあります。

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

索引

【英数字】

【あ】

【か】

【ま】

【ら】

【わ】

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）
なお、弊社の判断により保守サービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけない場合もあります。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

商標、ライセンスについて

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLC.の商標です。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing,LLCの商標または登録商標です。
- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

  ＊規定により英語で表記しています。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター　050-555-90005

受付時間：平日 9：00～20：00／土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※海外からご利用の方、または 050 からはじまる IP 電話番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDI-J431-010
© CANON INC. 2010